

## 第2期西区地域福祉保健計画素案

# ～ 目 次 ～

第1章 第2期西区地域福祉保健計画の策定にあたって	1
1 横浜市の都市づくりの方向性	1
2 2025年の西区と地域福祉保健計画が指すもの	1
3 地域福祉を取り巻く状況の変化	2
4 第1期西区地域福祉保健計画・西区社協プランの振り返り	10
5 第2期西区地域福祉保健計画策定の基本的な考え方	13
6 計画の特色	14
7 計画の期間	14
8 計画の根拠と位置づけ	14
9 策定過程	14
第2章 第2期西区地域福祉保健計画	15
1 基本理念と基本目標	16
2 福祉保健推進の目標値	17
3 区全域計画	18
4 地区別計画	30
5 推進と評価	43
第3章 第1期計画の振り返り	44

# 第1章 第2期西区地域福祉保健計画の策定にあたって

## 1 横浜市の都市づくりの方向性

本市においては、平成 18 年 6 月に横浜市基本構想（2025 年頃を展望した長期ビジョン）により「市民力」と「創造力」により新しい「横浜らしさ」を生み出す都市を目指すことが示され、横浜市の都市づくりの方向性として、市民主体の地域運営（エリアマネジメント）を支援していくことが示されました。

さらに、平成 21 年 1 月には、大都市・横浜にふさわしい新たな地方自治制度について検討してきた横浜市大都市制度検討委員会が、報告書「新たな大都市制度創設の提案」をまとめ、広域自治体から独立した新しい大都市制度の下で、大都市の地域レベルに「市民協働型の地域自治組織」を設置することが提案されました。

## 2 2025 年の西区と地域福祉保健計画が目指すもの

少子高齢化の進展や世帯構成の変化に伴い、介護を始めとして、地域で支援が必要な人が増えるため、限りある人材や資源をいかし、誰もが安心して生活できるような社会の仕組みをつくる必要があります。地域で暮らす人々が、他人を思いやり、お互いを支えあう気持ちを持ち、住みなれた地域で誰もがその人らしい、安心して充実した生活が送れるような地域づくりを進めるという地域福祉の推進が、ますます重要になっています。

横浜市基本構想が展望する 2025 年は、団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となり、福祉保健サービスの担い手から受け手へ移行し、その数が大幅に増大することが予想されています。

地域の状態を見ると、現在は、地域とのつながりを持とうとする意識の低下や交流の場の減少、地域活動の担い手や後継者不足が課題となっています。

このような状態が続き 2025 年を迎えた場合、地域におけるさまざまな福祉活動や日ごろの隣近所の支えあいが衰退し、安心して次世代が暮らすことができなくなる可能性があり、西区も例外ではないと思われます。

しかし一方で、西区は、ふれあい会を始めとした高齢者の見守り活動や幅広い世代が集う健民祭・運動会やおまつりが数多く活発に実施されるなど昔ながらの隣近所の温かな人間関係が残る地域です。

また、人口は近年増加に転じ、特に今後の地域の支え手となりうる子どもや子育て世代が増えており、その中には、今は仕事が忙しいなど何らかの理由によりできていないが地域活動へは参加してみたいと考えている人も多いため、地域とそのような人々との「つながり」ができれば、西区の未来を支える大きな力になります。

西区地域福祉保健計画は、2025 年以降の西区においても、区民・団体・行政など西区に暮らす全ての人々が力を合わせるにより生活課題の解決を図るとともに、地域の力を維持・向上し、誰もがいつまでもにこやかにしあわせにいきいきと暮らし続けることができる西区をつくることを目指しています。

### 3 地域福祉を取り巻く状況の変化

福祉や保健などの様々な生活課題に地域全体で取り組む仕組みをつくり、住みなれたまちで「誰もががにこやかに、しあわせに、いきいきと暮らし続けること」を目指した第1期西区地域福祉保健計画の策定から5年が経過し、地域福祉を取り巻く状況は、次のような変化がありました。

#### (1) 福祉制度等の改革

平成18年度に、介護保険法の改正により予防重視型のシステムへ転換が図られました。身近な地域で総合的な相談支援を行う地域包括支援センターの機能を地域ケアプラザ等で担うとともに、地域密着型サービスが創設されました。

また、障害者自立支援法の施行により、身体障害・精神障害といった障害の種別にかかわらずサービス利用の一元化が図られました。

医療制度改革では、療養病床の再編や在宅医療推進の方向性が示されました。

平成20年3月には、厚生労働省の「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」が報告書をまとめ、福祉施策における地域福祉の位置づけを明確にするとともに、地域福祉の推進は、地域における「新たな支え合い」（共助）を確立すること、住民が主体となり参加する場であることなどが提示されました。

#### (2) 横浜市の状況

##### ア 少子高齢化の進展【横浜市将来人口推計】

本市においても少子高齢化が着実に進み、人口がピークになる平成32年には、市民の4人に1人が65歳以上の高齢者（25.6%）となり、15歳未満は約1割（10.7%）に減少する見込みです。これ以降、人口は減少に転じ、高齢化はさらに進むと予測されます。

##### イ 世帯構成の変化【横浜市将来人口推計】

非婚・離婚の増加や、仕事・学業などの都合で家族と離れて暮らす人が増え、平成32年には、一人暮らし（単独世帯）が約49万8千世帯に増加（平成17年と比較し約6万2千世帯増加）するとともに、少子化等により夫婦のみの世帯の数も36万5千世帯に増加（平成17年度と比較し約6万6千世帯増加）しています。

##### ウ 深刻な社会経済状況下における生活困難者の増加【国勢調査】

都市部では、職がない若者（平成7年7,178人→平成12年21,678人）や生活保護を必要とする家庭の増加（平成15年29,613世帯→平成20年37,429世帯）、ホームレスやワーキングプアの問題など、個人の責任だけでは解決できない生活困難者の課題が多く見られます。

##### エ 地域の間人関係【平成19年度横浜市市民意識調査】

横浜市民は大都市の希薄な人間関係・近隣関係をそれほど否定的には考えず、程よい距離感を望む市民像（65%）がみられますが、一方で、地域での交流やつきあいを必要と思う市民も多く（77%）なっています。

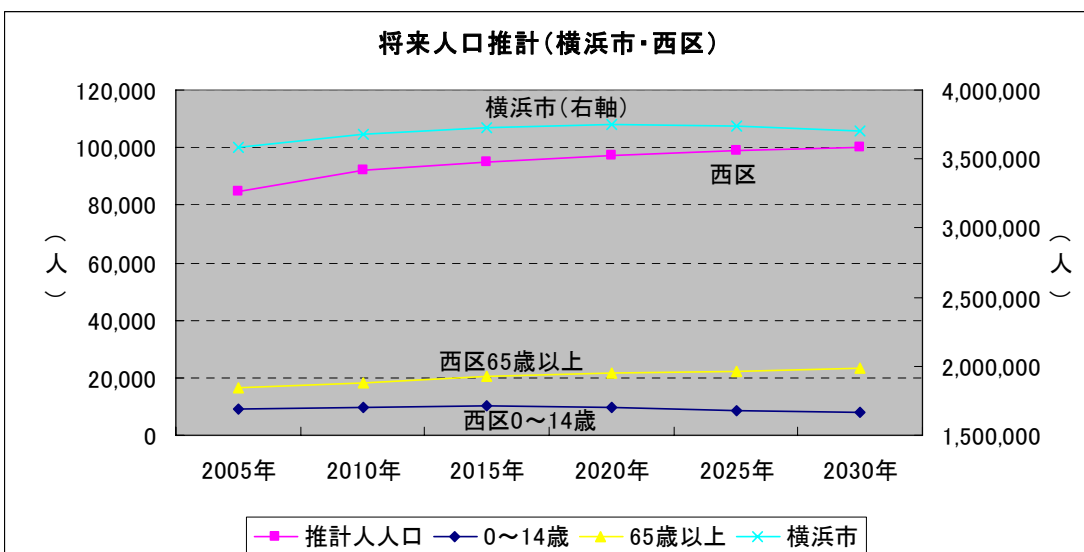
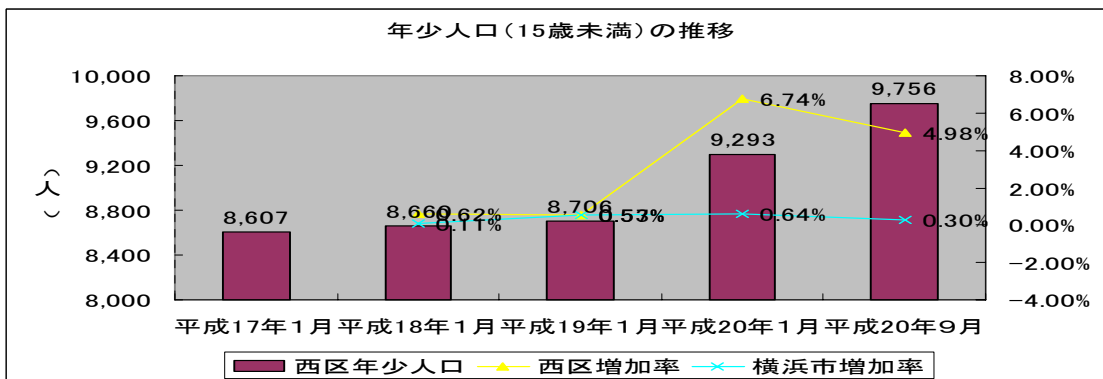
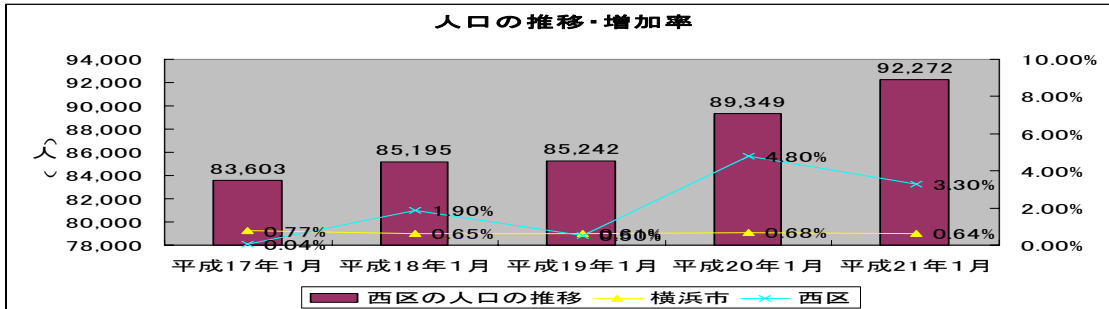
### (3) 西区の状況

#### ア 人口の増加

西区は、横浜市のほぼ中央に位置し、面積 6.98 k m<sup>2</sup>、人口 92,398 人（平成 21 年 3 月現在）で、18 区中最も小さい区です。

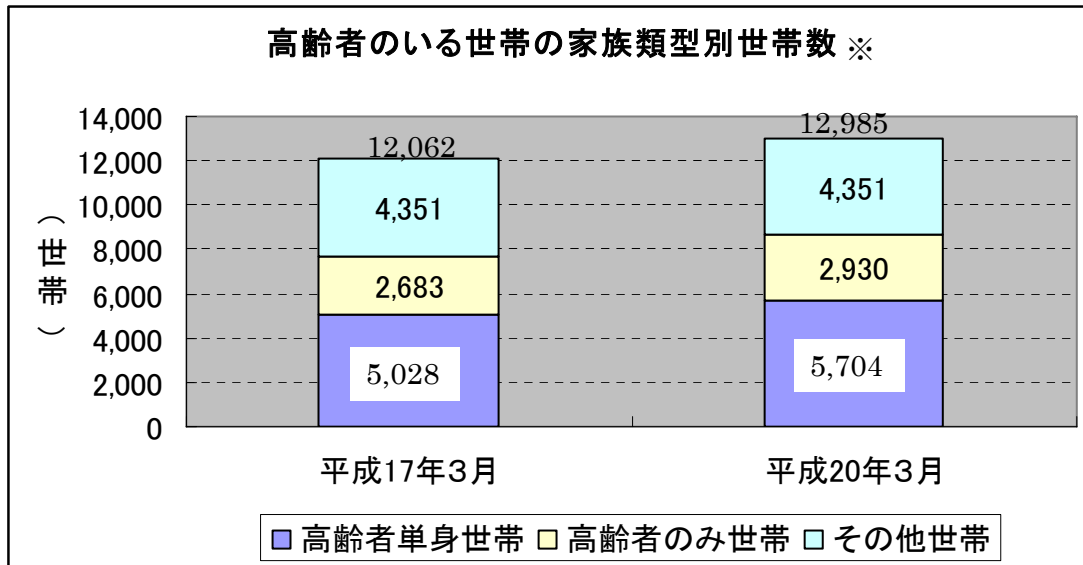
みなとみらい 21 地区を始め横浜駅周辺などの交通至便なところに、マンション開発などが進んだこともあり、平成 9 年度から増加に転じた人口は、平成 20 年 2 月には、33 年ぶりに 9 万人を突破するなど、引き続き高い伸びを示しており、当面この傾向が続きます。

また、横浜市全体は急速な高齢化が進む一方で、西区では近年こどもの数が増加するなど若い世代も増えています。

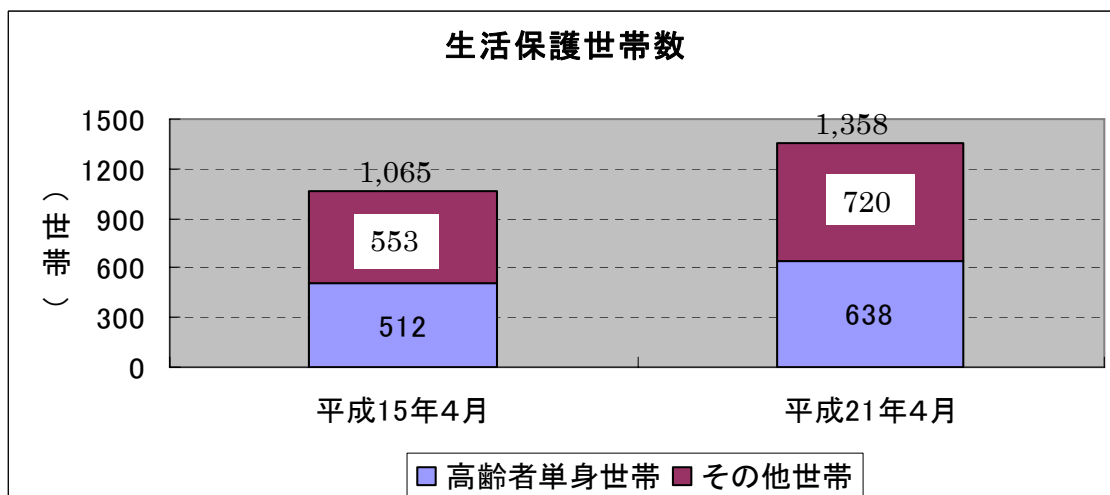
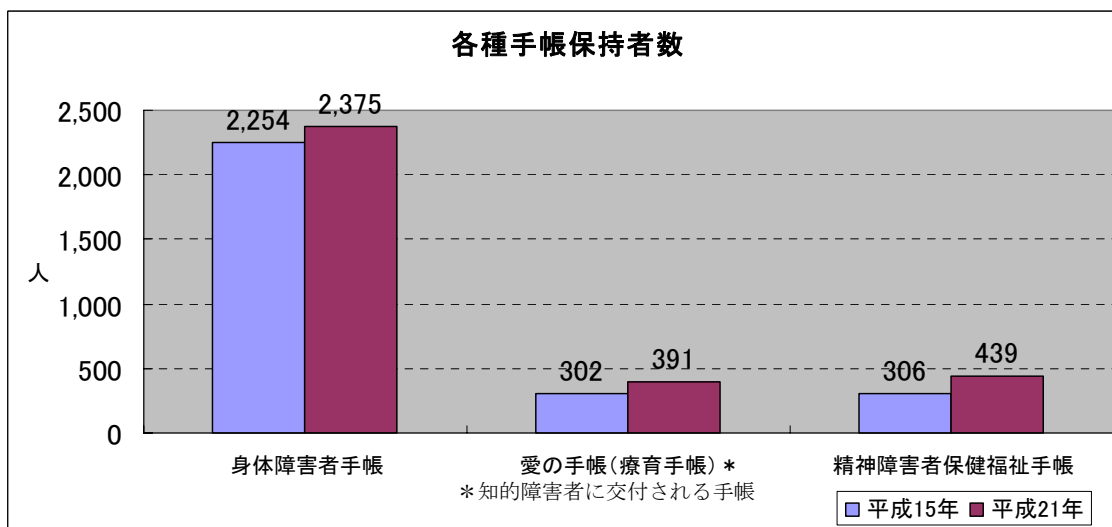


## イ 地域に暮らす要支援者の増加

少子高齢化の進展、医療や福祉制度の改革、社会経済情勢の変化により、地域に暮らす支援を必要とする人（要支援者）が増加しています。



※住民基本台帳上の値（高年齢者単身世帯及び高年齢者のみ世帯には世帯分離世帯を含む）



### ウ 福祉保健推進のための基盤整備の充実

西区においても地域の身近な福祉保健を推進するための基盤整備が進んでいます。

平成 20 年 1 月 福祉保健活動拠点「フクシア」

平成 20 年 12 月 精神障害者生活支援センター「生活支援センター西」

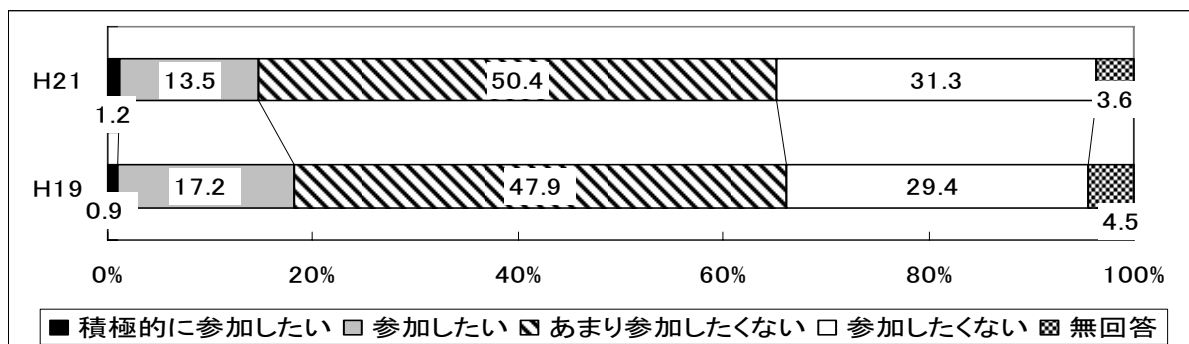
平成 21 年 6 月 法人型地域活動ホーム「ガッツ・びーと・西」

平成 22 年春開所予定 地域子育て支援拠点

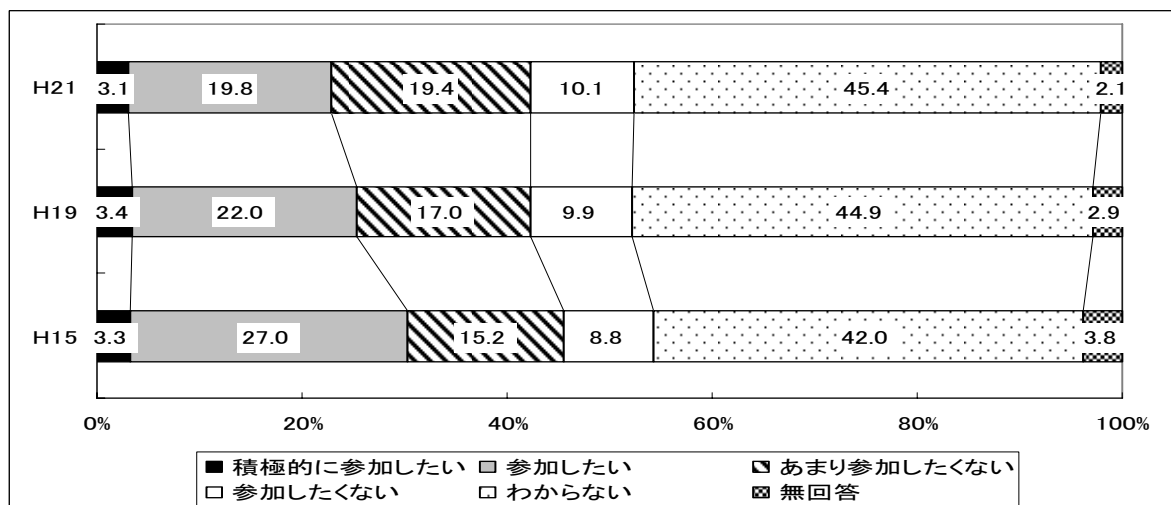
### エ 地域活動に対する区民意識の変化

区民アンケート（意識調査）では、地域活動への参加、異なる世代や障害児・者との交流など地域とのつながりに対する意欲が減少しています。

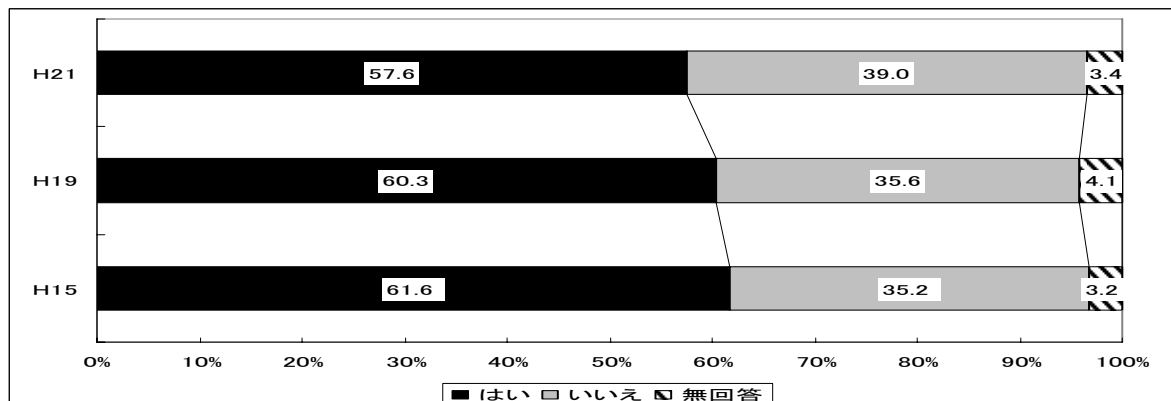
- 自治会・町内会などの活動（役員活動）へ参加したいですか  
（「これまで参加したことがない」と答えた人に対する質問の回答）



- 障害児・者と共に活動する機会があれば参加したいですか

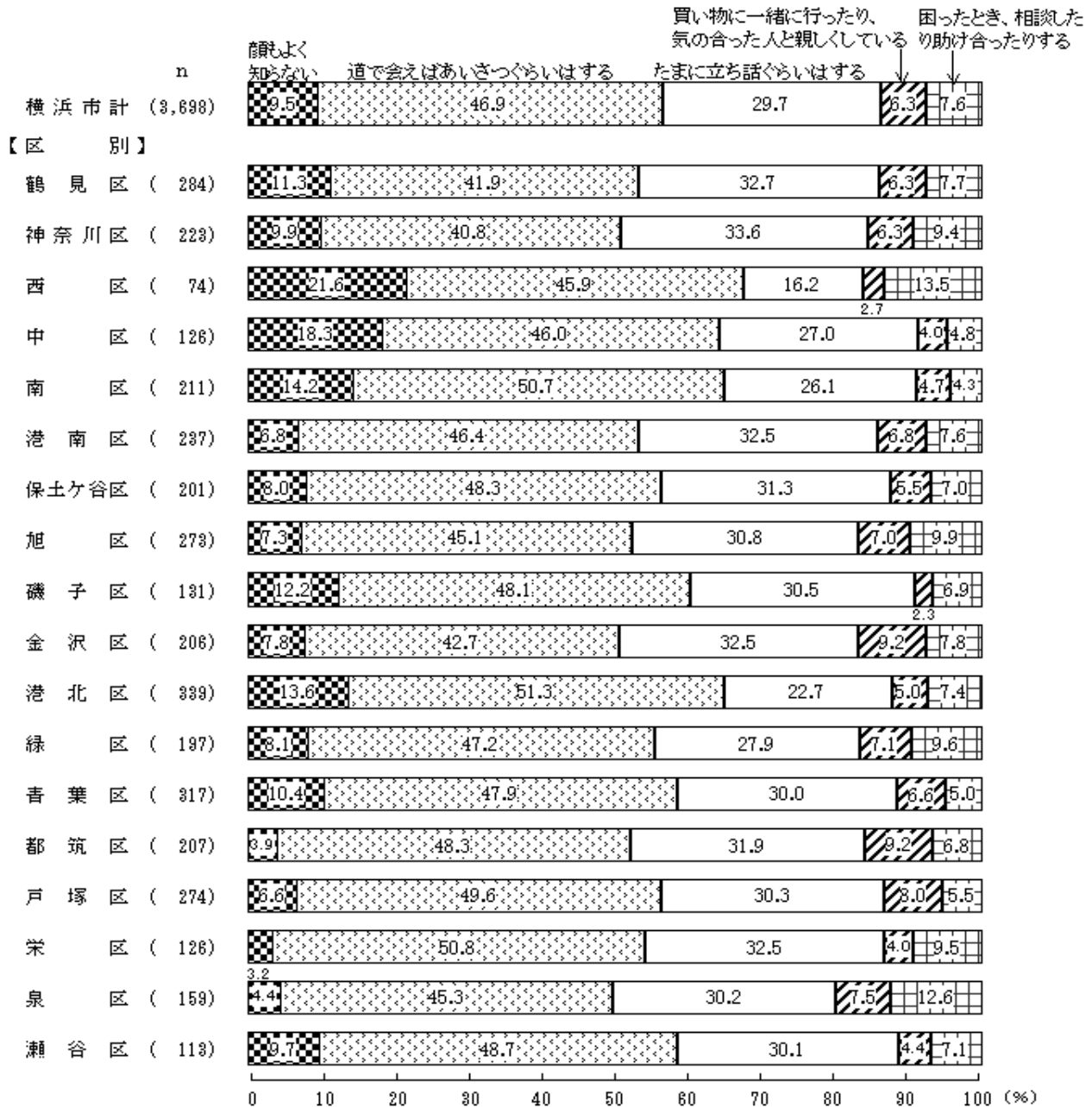


- 困ったことがあったときに近隣の方に助けてもらいたいですか



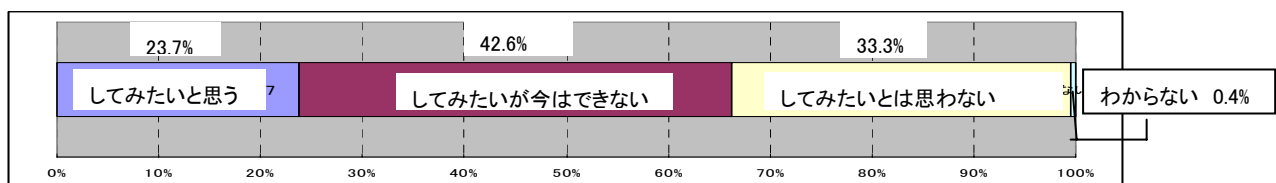
一方、市民意識調査によれば、西区は、隣近所とのつきあい方について、顔もよく知らない  
と回答した人の割合が 18 区の中で最も多くなっている反面、困ったとき、相談したり助け合  
ったりする人の割合も最も多く、昔ながらの隣近所の支えあいや助け合いの関係も残っていま  
す。

○ 隣近所とのつきあい方（平成 17 年度市民意識調査、横浜市）



地域活動については、担い手の高齢化や減少、負担の増加などが課題となっていますが、一方  
で、地域活動へ参加してみたい又はしてみたいが今はできない人が7割近くおり、仕組みやき  
っかけがあれば、かなりの人が何かしてみたいとの意向があります。

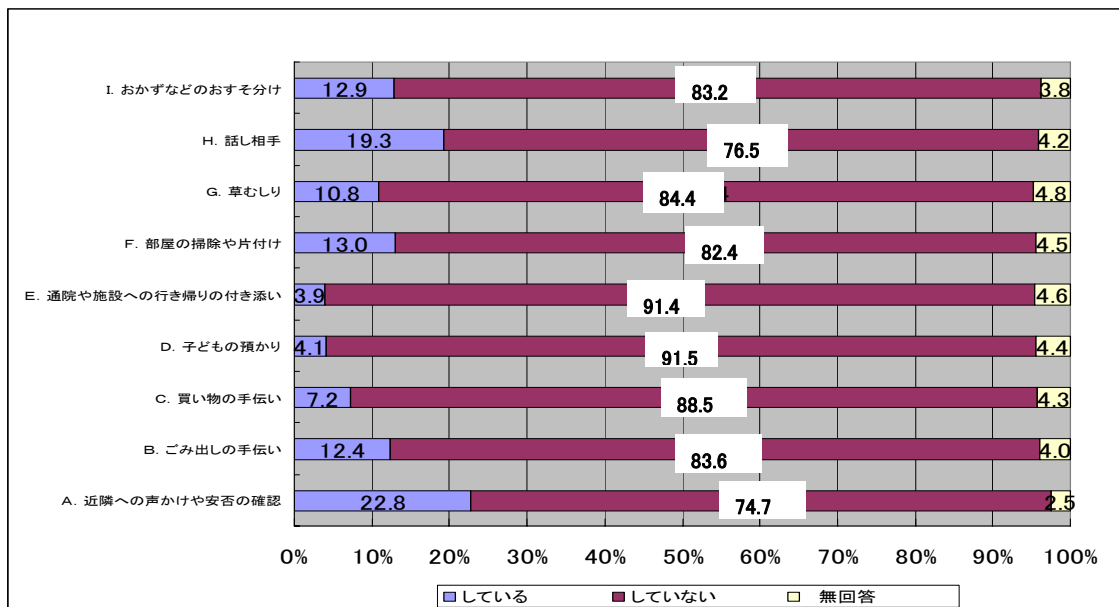
○ 今後の地域活動への参加意向（平成 18 年度市民意識調査、横浜市）



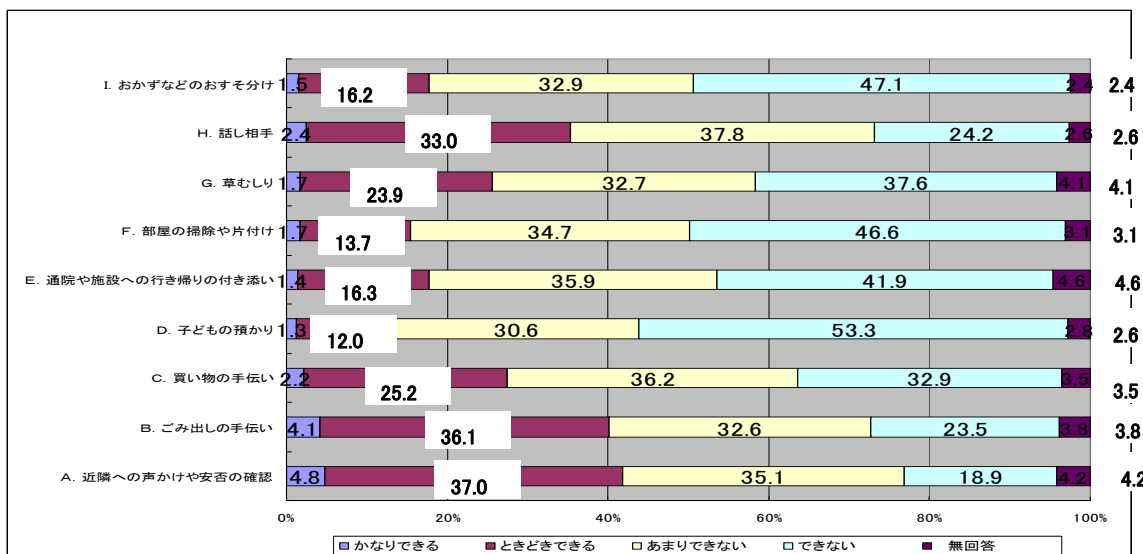


また、西区における区民アンケート（意識調査）でも、現在、地域のさまざまな活動に参加していない人でも、近隣への声かけ・安否確認やごみ出しの手伝いなど項目によっては「できる」と考えている人が4割近くに達しています。

○ 近隣との関係のなかで、ちょっと困っている人がいた場合に、あなたが行っていることがありますか



○ 行っていない場合、今後「できること」はありますか



○ 【参考】自治会町内会運営上の課題について

平成 20 年度横浜市自治会町内会アンケート調査報告書によれば、自治会町内会運営上の課題について、役員のなり手が少ないこと、役員・会員の高齢化が大きな課題となっています。

エ 地域・課題の多様化 ～地域主体の課題解決の取組が必要に～

西区では、マンション建設等により、人口増加や人口構成の変化が生じています。

また、住居形態・地形・福祉施設や公園といった利用できる社会資源等が地域により異なり、そこに暮らす人々の生活課題も異なっています。

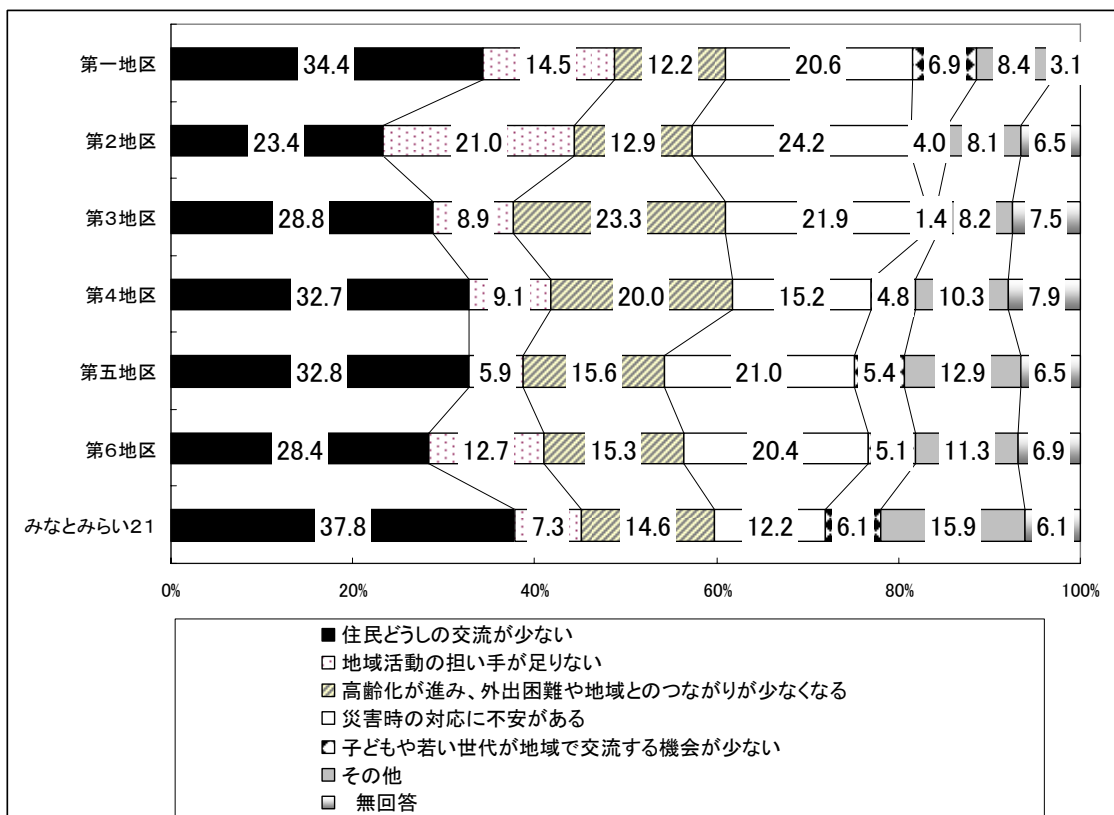
また、地域活動の担い手の減少、住民同士の交流が少ないことは西区の共通の課題ですが、地区により割合に差が生じています。

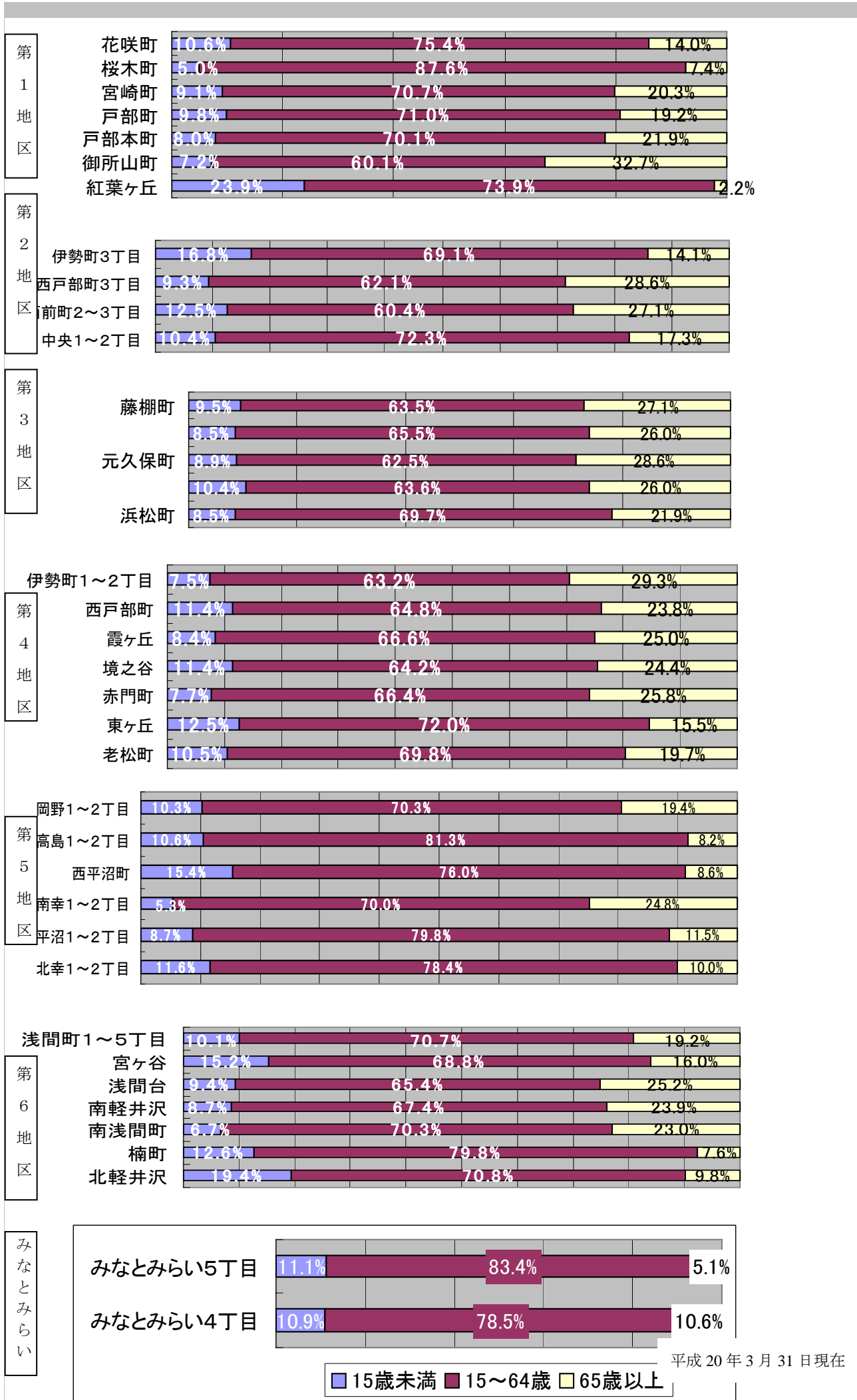
区内においては、住民が集える拠点が身近に存在していることや地域の見守り活動が活発に行われていること、おまつりがさかんであることといったそれぞれの地域の特性があります。課題の解決に向けては、これらの地域特性をふまえ、地域が主体的に取り組んでいく必要があります。

○ 地域で活動する主な団体の数 (平成20年3月)

組織	総数	1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	みなとみらい21
自治会町内会	100	14	11	16	17	20	21	1
ふれあい会	55	9	10	8	11	8	9	0
子ども会	72	7	10	14	11	13	17	0
老人クラブ	72	12	9	16	14	7	14	0

○ 住みよい地域にするためどのような課題が解決されるとよいと思いますか





平成 20 年 3 月 31 日現在

■ 15歳未満 ■ 15~64歳 ■ 65歳以上

## 4 第1期西区地域福祉保健計画・西区社協福祉プランの振返り

西区地域福祉保健計画と西区社協福祉プランはともに、地域で福祉のまちづくりを推進するための計画であり、相互に補完し、連携・役割分担をするものです。

西区においては、第1期においても、同じ目標を掲げ、共同で推進してきました。

### (1) 西区地域福祉保健計画

#### ア 概要

平成 17～21 年度を対象とし、福祉や保健などの様々な生活課題に地域全体で取り組む仕組みをつくり、住みなれたまちで「誰もがにこやかに、しあわせに、いきいきと暮らし続けること」を目指しました。

- 区民の声を広く集め、一緒に考え、策定しました。
- 区民（個人）、団体、行政のそれぞれの取組を定めました。
- 地域福祉保健推進の指標を設定しました。

#### イ 取組状況

##### (ア) 個人・団体・行政それぞれによる推進

第1期計画は西区全域を対象として、地域の身近な福祉保健課題の解決を目指しました。目標達成に向けた団体や行政の取組は第1期の5か年で大きく増加（振返りシート取組数合計⑰567→⑳942）し、それぞれの活動を通じて、区域全体で計画を進めてきました。

##### (イ) 地区別懇談会の開催

平成 20 年度からは、地域の特性や課題に合わせ、きめ細やかな計画推進を目指し、地域住民と区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザがともに地域の課題や解決方法等について話し合う懇談会を各地区で開催しています。

#### ○地区別懇談会について

地域に暮らす人たちが中心となり、身近な地域におけるきめ細やかな福祉保健の推進を図るための話し合いの場です。

また、懇談会を通じて、区全体で推進してきた取組みを、地域特性や課題に合わせ、より身近な地域での取組みへと広げていきます。

【開催単位】各地区連合町内会（みなとみらい 21 地区は今後実施予定）全 6 地区

【メンバー】各地区で町内会や子ども、障害、高齢者、防犯などさまざまな分野・団体で活動されている方など（各地区で 10～18 人）、アドバイザー

【支援体制】区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザは、チームとして話し合いに参加するとともに、懇談会の運営や懇談会の取組みを支援します。アドバイザーは懇談会の進め方や他地域の取組み等について助言します。

#### 【懇談会で話し合うこと】

- ① 地域の現状を確認します。  
地区の特性、各団体の活動、地域の拠点、社会資源など
- ② 課題を整理し、地域全体の課題を抽出します。  
課題の優先度や重要度などを確認します。
- ③ 地域の目指す姿（目標）に到達できるように、具体的な活動につなげます。

## (2) 西区社協福祉プラン

### ア 概要

西区社協福祉プランは、平成 18～21 年度を対象とし、区の計画と基本理念と基本目標を共有し、区社会福祉協議会や地区社会福祉協議会を構成する団体や機関が、自らの役割や特色を活かして、協働しながら取組むことにより、目標が達成されることを目指しました。

- 地区社会福祉協議会としての取組みを、区社会福祉協議会の会員全体で検討しました。
- 区社会福祉協議会としての取組みを、障がい児者団体や関係機関、ボランティア活動団体、地区社会福祉協議会を中心に検討しました。

### イ 取組状況

地域福祉の推進を目的としている社会福祉協議会は、その事業実施を通じて目標達成に取り組んできました。

#### (ア) 区社会福祉協議会による推進

平成 19 年度に区社会福祉協議会の組織を見直し、課題別分科会を設置しました。これにより会員が主体的に参加する仕組みができ、地区社会福祉協議会と施設や、ボランティア・市民活動団体などが、それぞれの活動内容を理解し、テーマに沿った協働の活動を展開しました。

##### ○ボランティア・市民活動分科会

- ・基本目標 2 どの世代も活躍できる場面を持つ

活動紹介、担い手募集のために活動紹介紙「みらい」を発行

##### ○障がい福祉関係分科会

- ・基本目標 1 安心が確保され安全なまち

「災害時に支援が必要な人への支援マニュアル」作成

- ・基本目標 3 一人ひとりの個性を認めあい

みんなが共存するまち

障害者週間キャンペーン等の実施による啓発活動の実施

##### ○児童福祉関係分科会

- ・基本目標 5 子どもが健やかに成長できるまち

「地域での子育て支援」をテーマに研修会を開催

##### ○高齢者福祉関係分科会

- ・基本目標 6 必要な情報が正確に伝わるまち

身近な地域情報提供のために「高齢者おたすけマップ」を作成

#### (イ) 地区社会福祉協議会による推進

基本目標 4 地域全体がつながりを持つまち

- ・地区内で活動している団体間の交流の場作りに取り組みました。
- ・災害時に支援が必要な人への対応について検討しました。
- ・親子ふれあい会を実施し、地域ぐるみで子育て支援を行いました。
- ・高齢者会食会を実施し、地域全体での見守り活動を行いました。

### (3) 第1期計画の課題

#### ア 地域が主体となった課題解決の仕組みづくり

人口構成・住居形態・地形・福祉施設や公園といった利用できる社会資源等が地域により異なるため、区全域計画を推進するだけでは、一般論になりがちで、支援が必要な人の課題の解決に結びつく仕組みにつながりにくいため、地区の特性・課題に合わせ、きめこまやかにかつ具体的に計画を推進する仕組みが必要です。

#### イ 区計画と区社協計画の一体的な推進

西区の区計画と区社協計画は、第1期においても同じ目標を掲げ、区社協計画の取組主体である区社協や地区社協は、区計画の推進にあたって非常に重要な役割を担ってきましたが、2つの計画が別立てであることは区民にとってわかりにくいものとなっていました。

地域福祉保健計画が住民主体で推進される計画であることから、地域に暮らす全ての人々（個人・団体・行政）が力を集結して「誰もがにこやかに、しあわせに、いきいきと暮らしつづけること」を実現するためには、1つの計画として一体的に推進することがなにより必要です。

#### ウ 地域ケアプラザの役割の明確化

地域ケアプラザは、誰もが住みなれたまちで、安心して暮らせる地域をつくっていくため拠点であり、西区では、4つの地域ケアプラザが、担当する地域の特性やニーズにあわせ、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉・保健サービス等を身近な場所で総合的に提供しています。

第1期計画においても、地域ケアプラザは、地域福祉保健計画の推進を念頭において取組を進めており、地域福祉の推進に果たす役割は非常に重要であることから、計画においても明確に位置づけていくことが必要です。

#### エ 健康づくりの視点の強化

健康づくりや保健の活動は、自分らしい生活の仕方ができるための心身の状態をつくり、保っていくことを目指しています。

健康づくりや保健の取組としては、公的機関が各種の予防事業や情報提供を行うとともに保健活動推進員や食生活等改善推進員など保健人材も地域で健康づくり活動を実践してきました。

誰もが関係し、関心の高い「健康づくり」をテーマに、住民の主体性を活かした健康づくり活動を展開することは地域のつながりづくりや活性化にもつながるため、健康づくりの視点を強化していくことが必要です。

#### オ 社会情勢の変化への対応

一層の少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化等により、地域で暮らす人々の生活課題も多様化・複雑化し、個人の努力や公的な支援だけで対応することは困難です。

多様化・複雑化する生活課題を解決するためには、地域において日ごろから顔の見える関係を築き、

- 支援が必要な人を見つけられる仕組み
  - 支援が必要な人が福祉的サービスへつながる仕組み
  - 住民同士で助け合い・支えあう仕組み
- をつくるのがこれからの社会では一層求められています。

## 5 第2期西区地域福祉保健計画策定の基本的な考え方

### (1) 第1期計画の継承

幅広く多くの区民の声を集めて定めた第1期西区地域福祉保健計画は、計画期間5か年で完結するものではなく、だれもが住みやすい西区を目指すうえで、普遍的・永続的な計画となっています。

そのため、引き続き第2期計画でも第1期計画の基本理念や6つの基本目標を継承したうえで、社会の変化等を踏まえた見直しを行い、第2期計画とします。

#### 【基本理念】

西区に住む私たちは健康で楽しく豊かな生活を送ります。地域での生活に定年はありません。自分たちでできることは自分たちで考え、人々がつながり、地域に根を張り、その枝葉を伸ばしていきます。

#### 【基本目標】

- 1 安全が確保され、安心なまち
- 2 活気にあふれ、健康なまち
- 3 一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち
- 4 地域全体がつながりを持つまち
- 5 子どもが健やかに成長できるまち
- 6 必要な情報が正確に伝わるまち

### (2) 3つの方向性

第2期計画は、横浜市の都市づくりの方向性、地域福祉をとりまく状況の変化及び第1期計画の振り返りを踏まえ、次の3つの方向性に沿って策定します。

#### <方向性1>地域のつながり・新たな地域福祉の担い手を広げます

- ・一人ひとりと地域とのつながりを強化するための取組
- ・新たに地域の福祉保健活動に参加する人を増やすための取組

#### <方向性2>具体的な地域の課題解決の仕組みをつくります

- ・地区の特性・課題を踏まえたプランづくり
- ・地域・団体・行政の協働による取組

#### <方向性3>支援が必要な人を地域で支える仕組みをつくります

- ・地域におけるセーフティネットづくり
- ・地域と専門機関のネットワーク構築

## 6 計画の特色

### 重点推進目標の設定

第1期計画の基本理念や基本目標を継承したうえで、6つの基本目標毎に構成されている小目標の中から、「3つの方向性」に沿って、第2期で特に重点的に取り組む項目を「重点推進目標」として選びます。

また、「重点推進目標」を達成するための具体的取組と6年後（第2期計画最終年度）の目標値を新たに設定します。

### 地区別計画の策定

地域・団体・行政がともに力を合わせ、地域の課題解決に具体的につなげていくため、区全域計画に加え、各地区別の計画を策定します。

### 区・区社協・地域ケアプラザの協働の強化

第1期計画では別々に策定していた区計画と区社協計画を一体化します。

また、区・区社協・地域ケアプラザが協働して計画を推進するため、基本目標毎に三者の取組を定めます。

## 7 計画の期間

### ○ 計画期間を6か年とします。

平成22年度～27年度の6か年を計画期間とします。

## 8 計画の根拠と位置づけ

市町村の地域福祉計画策定は、平成12年に社会福祉法で定められました。

横浜市においては、地域の生活課題を十分に反映させるため、区ごとに「地域福祉計画」を策定し、市レベルでは区計画を支援するための計画を策定し、推進しています。

## 9 策定過程

- (1) 策定委員会
- (2) 地区別懇談会  
(検討経過を掲載)



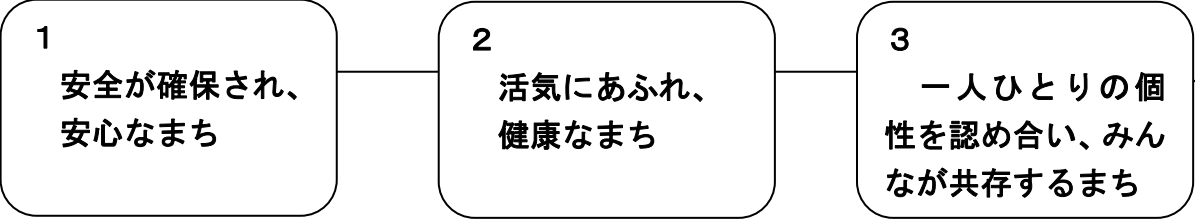
## 第2章 第2期西区地域福祉保健計画



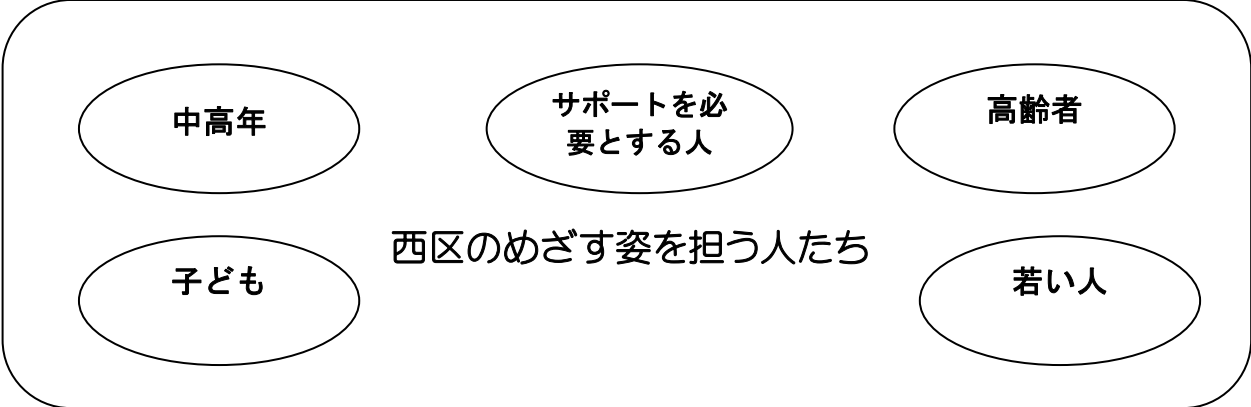
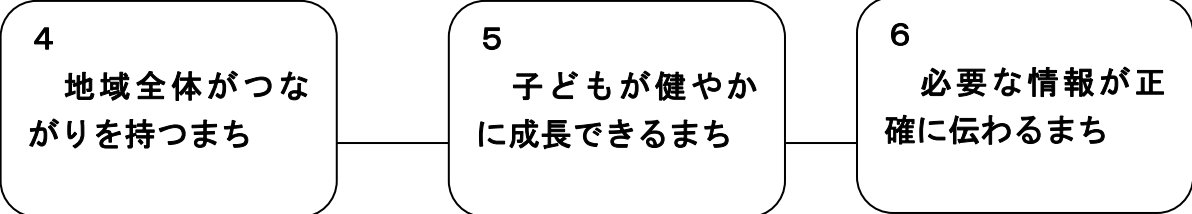
# 1 基本理念と基本目標

## 基本理念

西区に住む私たちは、健康で楽しく豊かな生活をおくれます。地域での生活には定年はありません。自分たちでできることは自分たちで考え、人々がつながり、地域に根を張り、その枝葉を伸ばしていきます。



## 基本目標 西区のめざす姿



～それぞれの世代が、共通したテーマで集まり  
つながりあうことで、基本目標が実現されます～



## 2 福祉保健推進の目標値

地域福祉保健の推進が計画の最終年次である6年後にどの程度図られたのかを把握し、判断するため、「福祉保健推進の目標値」を設定しました。目標値が達成されると、西区のめざす姿の実現に近づきます。基本理念の指標である「今後も西区に住み続けたい」と思う人が増えるよう取組を進めます。

目標	項目	平成15年度	平成21年度	目標値
基本理念	今後も西区に住み続けたい	56.5%	57.7%	90%
1	西区は治安が良く、安全が確保されたまちだと思う	38.1%	56.7%	60%
1	ごみ出しのルールを必ず守る	75.9%	74.8%	100%
1	ポイ捨てをしないというルールを必ず守る	71.3%	78.9%	100%
1	公共の乗り物でのマナーを必ず守る	44.3%	41.0%	100%
1	駐輪・駐車を守る	63.4%	72.2%	80%
1	ルールを守らない人を見かけたときに注意することができる	22.0%	23.0%	35%
2	自分が健康だと感じている	77.9%	79.8%	80%
2	過去1年の間に健康診断を受けた	70.4%	70.4%	80%
2	健康診断などの結果、生活習慣病が特にならない	39.7%	45.7%	50%
2	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの医師がいる	55.0%	54.5%	90%
2	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの歯科医師がいる	53.1%	53.0%	90%
2	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの薬剤師がいる	17.8%	21.4%	30%
2	健康を維持するのに必要な身体を動かすことに既に取組んでいる	35.8%	34.4%	40%
2	健康を維持するために食生活の改善に既に取組んでいる	47.6%	51.4%	80%
2	家族以外で自分の世代とは違った人と共に活動する機会があった	38.0%	40.1%	70%
2	自分の世代とは違った人と共に活動する機会があれば参加したい	39.4%	36.9%	60%
3	障害者(児)と共に活動を行う機会があった	17.1%	16.0%	30%
3	障害者(児)と共に活動する機会があれば参加したい	30.3%	22.9%	50%
3	ちょっと困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や近くの友人がいる	53.9%	49.3%	80%
5	地域で未成年の喫煙をほとんど見かけない	11.1%	27.9%	100%
5	近隣の子どもにあいさつなどの声をかけることがある	57.0%	57.9%	90%
5	近隣の子どもに注意することができる	60.1%	56.4%	90%
6	西区からのお知らせや催し物の情報をホームページから得る	2.4%	4.0%	10%



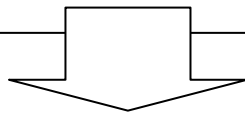
### 3 区全域計画

第2期計画では、第1期計画の評価を踏まえ（P.44～）、各基本目標の小目標の中から、重点的に取組を進める「重点推進目標」を定めます。「重点推進目標」の実現に向けて、個人、団体、行政、区社会福祉協議会、地域ケアプラザが取組を進める指標として、6年後の目標値を新たに定め、共に推進をしていきます。

#### 基本目標1 安全が確保され、安心なまち

##### 小目標

- ①地域全体でサポートを必要とする人を見守る
- ②近隣の人と顔見知りになる
- ③地域で助け合う関係を築く
- ④マナーやルールを守り、お互いの信頼関係を深める



～第2期計画の重点推進目標～

#### 地域で助け合う関係を築く

##### 6年後の目標値

- ◆高齢者や子どもの見守り活動を行う団体数を増やします。 団体数増
- ◆防災訓練への参加者数を増やします。 参加者数増
- ◆防犯に関する講座、イベントの実施回数を増やします。 行事数増

#### 目標達成への方向性

西区では、子どもの登下校時の見守り、ひとり暮らし高齢者等の見守り活動など地域の支えあいの取組が活発に行われています。また、第1期計画の5年間では、地域の防犯パトロールも団体どうしが連携した取組みが広がっていますが、一方で区民アンケートでは、防犯面や災害時の対応が不安との意見が多くあります。

第2期計画では、災害時に支援を必要とする人の把握や支援の仕組みづくりを通して、お互いのことを知り合い、日ごろから地域で助けあう関係を築き、安全で安心な暮らしを実感できるまちを目指します。

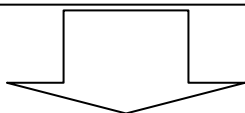
目標達成に向けた取組

個人	<p>ふれあい会、友愛チーム等見守りの団体数を増やします。</p> <p>近隣の人と顔見知りになり、日常生活での支援が必要になった時に見守りあう関係を築きます。</p>	<p>防災訓練への参加者数を増やします。</p> <p>地域の防災訓練に参加し、災害時の対応への意識を高めます。</p>	<p>防犯に関する講座、イベントの実施回数を増やします。</p> <p>危険から身を守る手段を学び、地域で行われている防犯活動に関心を持ちます。</p>
団体	<p>ひとり暮らし高齢者等の見守りについて、周囲に働きかけ、共に活動できる人を増やします。</p> <p>【ふれあい会、友愛チーム、民生委員・児童委員、西ともしび、みつわの会、ほっと幸せ会、赤い靴…】</p>	<p>防災訓練への参加者が増えるよう、団体どうしが連携し、参加を促します。</p> <p>【町内会・自治会、災害ボランティアネットワーク、障害者団体】</p>	<p>防犯に関する意識を高め、地域での防犯への取組みを増やします。</p> <p>【PTA、町内会・自治会、警察】</p>
行政	<p>団体間や関係機関のつながりを密にし、見守り体制を強化します。</p> <p>判断能力が不十分となったり、虐待されているなど自ら声をあげられない人の権利擁護に取り組めます。</p>	<p>地域における災害時の要援護者の把握や支援のしくみづくりを進めます。</p>	<p>防犯に関する講座やイベントなどの実施により防犯への関心を高め、地域での防犯に関する取組を支援します。</p>
区社会福祉協議会	<p>見守り活動を行う団体への支援を行うとともに、新たな担い手向けの研修・講座等を行います。</p>	<p>災害ボランティアネットワークの拡充を推進します。サポートが必要な人が地域の防災訓練に参加できるような情報提供を行っていきます。</p>	<p>ひとり暮らし高齢者等を狙った犯罪を防止するための取組みを支援します。</p>
地域ケアプラザ	<p>孤立している高齢者等に対し、区役所と連携して支援し、地域とつなげていきます。</p>	<p>施設内で防災訓練や避難訓練を行います。</p> <p>地域の防災訓練にも参加し、災害時への備えを行います。</p>	<p>悪徳商法やオレオレ詐欺などひとり暮らし高齢者を狙った犯罪防止のための講座を実施します。</p>

## 基本目標2 活気にあふれ、健康なまち

### 小 目 標

- ① 自分が健康であるために、健康の意識を高める



～第2期計画の重点推進目標～

自分が健康であるために、健康の意識を高める

### 6年後の目標値

- ◆がん検診・健康診断の受診率を上げます。 受診率増
- ◆ウォーキングへの取組を増やします。 取組数増
- ◆食習慣の改善に取り組む人を増やします。 取り組む人数増
- ◆介護予防講座への参加者数を増やします。 参加者数増

### 目標達成への方向性

健康は、個人の問題ととらえられがちですが、地域生活の視点で住民がともに健康を考え、共通の課題や対応策を検討することで、幅広い取組みや支援を具体化することができます。

第1期計画では、健康維持への関心の高まりともあわせ、介護予防のための体操、ウォーキングや講座など、様々な人が参加して地域で一緒に活動する健康づくりの取組がすすめられました。

第2期計画では、より多くの人に関心を持ち、楽しんで参加できる取組みを実施し、新たに地域活動に参加する区民を増やすとともに、健康づくり活動の場を住民相互の交流・人間関係づくりを進める場にします。

## 目標達成に向けた取組

	がん検診・健康診断の受診率を上げます。	ウォーキングへの取組を増やします。	食習慣の改善に取り組む人を増やします。	介護予防講座への参加者数を増やします。
個人	定期的に健康診断を受け、健康への意識を高めます。	食生活の改善や運動など仲間と一緒に考え、楽しく参加する機会を増やします。		健康への意識を高め、心身の機能を維持することを心がけます。
団体	身近な地域で、検診・健診に関心をもってもらえるよう働きかける機会を増やします。 【医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健活動推進員】	ウォーキング等運動習慣を身につける機会を提供します。 【保健活動推進員】	食の安全を学ぶ機会を増やし、食生活を中心とした健康づくりに取り組む人が増えるよう支援します。 【食生活等改善推進員】	元気なうちから健康づくりへの関心を持ち、介護予防の取組に参加する人を増やします。 【 】
行政	健康への意識を高め、がん検診の受診率を上げます。	運動習慣を身につける機会を提供する団体を支援します。	食を通じての健康づくりを推進し、食育活動を提供する団体を支援します。	介護予防のための健康づくりへの取組を支援します。 介護予防講座を実施し、いきいきと地域で生活できるよう支援します。
区社会福祉協議会				会食会や高齢者サロンなど、居場所づくりをすすめます。
地域ケアプラザ	地域住民に健康づくりに関する啓発を行います。	地域での行事等で介護予防体操等を紹介し、普段から健康維持に努められよう働きかけます。	男性の料理教室や子育て支援の事業等を通じて、幅広い世代に食の大切さを伝えます。	介護予防講座を実施し、いきいきと地域で生活できるよう支援します。

## 基本目標3 一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち

### 小目標

- ① 地域と接点を持つ
- ② 自分からも気持ちを伝える
- ③ サポートを必要とする人をありのままに受け入れる姿勢を持ち、支援をする
- ④ 障害児は、いろいろな人といろいろなところ（場面）で多くの体験をする

～第2期計画の重点推進目標～

サポートを必要とする人をありのままに受け入れる  
姿勢を持ち、支援をする

### 6年後の目標値

- ◆サポートが必要な人についての啓発講座への参加者や共に活動できる場（イベント、町内会活動、小中学校での活動等）を増やします。交流・啓発の場や参加者を増やす
- ◆作業所や自主活動グループ、団体等の活動を広く紹介します。（広報紙の発行、ちらし作成、ホームページに掲載）情報発信の回数増

### 目標達成への方向性

障害の種別に関わらず一元的に福祉サービスを利用できる仕組みとして障害者自立支援法が制定され、西区では、（法人型の）障害者地域活動ホームや精神障害者生活支援センターが開所するなど、近年、障害児者が地域で生活するための基盤整備が進みました。

第2期計画では、地域の拠点を中心に地域とのつながりづくり、関係づくりを進めます。

また、障害児者を初めとしたサポートを必要とする人が、自らの活動や気持ちを発信し、地域に溶け込み、いきいきと暮らし続けることができるようなしくみづくりに取組みます。



# 目標達成に向けた取組

目標達成に向けた取組				
	共に活動する	関係団体の連携	自ら伝える	互いの理解を深める
個人	サポートが必要な人についての啓発講座への参加者や共に活動できる場を増やします。		作業所や自主活動グループ、団体等の活動を広く紹介します。	
個人	近隣でサポートが必要な人に声をかけ、安否確認や話し合い相手、ごみ出しの手伝いなど自分ができるところを手伝います。		サポートが必要な人が自分から気持ちや状況を伝えます。	認知症への理解を深め、身近な地域で生活できるよう支援します。
団体	町内会活動、行事、イベント等を行う時にサポートが必要な人に声をかけ、共に活動します。 【町内会・自治会、小学校・中学校…】	障害者団体、作業所、グループホーム、民生委員児童委員等関係機関は課題等を話し合い、連携して共に活動を進めます。 【自立支援協議会・障害福祉関係分科会…】	障害者団体は自分達の活動状況を発信します。 【みらい工房西…】	認知症への理解を深め、見守る人を増やします。
行政	障害理解のための啓発講座を開催し、共に活動する機会を増やす支援をします。	障害者団体、作業所、グループホーム等関係機関のネットワークをつくる自立支援協議会を支援します。	障害者当事者グループ、作業所の活動を紹介し、活動の活性化を支援します。	事業所や関係機関と連携し、認知症の方を地域で支える体制づくりに取組みます。
区社会福祉協議会	当事者団体等が主体となって行う「共に活動する機会づくり」を支援します。	自立支援協議会に参加し、関係機関との連携を推進します。当事者団体のネットワーク化を一層推進します。	当事者団体が、自らの活動を伝えるための発信力を高めるよう支援していきます。	障がいのある人や認知症のある人等サポートを必要とする人に対し理解を深めるため、研修会・講座等を開催し啓発に努めます。
地域ケアプラザ	作業所や障害者団体と連携し、地域との交流の機会をつくりまします。	自立支援協議会に参加し、支援の輪を広げていきます。	ケアプラザまつりや行事等で作業所の製品を紹介したり、事業の中で日頃の活動を伝える機会をつくりまします。	認知症の理解を深める研修会を実施し、地域でサポートできるキャラバンメイトを広げていきます。

## 基本目標4 地域全体がつながりを持つまち

### 小 目 標

#### 【団体どうしが連携する】

- ① 自分たちの活動を見つめなおす
- ② 関係する団体どうしの連携を図る

#### 【地域活動に参加する】

- ③ 共に地域をつくる姿勢を持つ
- ④ どの世代も活躍できる場面を持つ

～第2期計画の重点推進目標～

(I) 関係する団体どうしの連携を図る

(II) どの世代も活躍できる場面を持つ

### 6年後の目標値

- ◆連絡会や講座、行事等に新たな団体と共に取組みます。 新たな団体と連携した回数増
- ◆学生、子育て世代、団塊の世代、高齢者等対象者に合わせて、活動に関心を持ってもらう講座や行事を増やします。 講座・行事の開催数増

### 目標達成への方向性

(I) 第1期計画の5年間では、地域の福祉保健を推進する団体の取組数が増加するとともに、特定のテーマに沿って活動するNPO等の団体も増えてきています。

一方で、同様の取組を同じ時期に複数の団体が行っていたり、構成員の減少や高齢化が進むなど、担い手不足が大きな課題となっています。

第2期計画では、関係する団体同士がお互いを知り、個性を認め合いながらゆるやかにつながり、協力することで、担い手一人ひとりの負担軽減を図り、地域の福祉保健を一層推進します。

(II) 自治会町内会やボランティアグループでは、活動を支える担い手不足や次の担い手育成が大きな課題となっています。

退職期を迎えた団塊の世代や中間層など幅広い世代の区民が、自治会町内会やボランティアなどさまざまな場面・分野、地域づくりに参加でき、活躍できるしくみづくりを推進します。

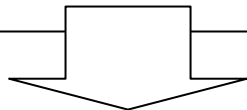
目標達成に向けた取組

		連絡会や講座、行事等に新たな団体と共に取組めます。		学生、子育て世代、団塊の世代、高齢者等対象者に合わせて、活動に関心を持ってもらう講座や行事を増やします。	
		互いの活動を知る	団体間の協力	世代間の交流	活動者を増やす
個人				掲示板や回覧等、地域情報に目を向け、関心があるものから参加します。	活動している人が身近な人に声をかけ、活動を伝え、参加するための橋渡しをします。
	団体	自分たちの活動を他の団体や周囲に伝える工夫をします。 【CLIPあこーん、サポート西、テーマ別分科会…】	同様のテーマで取組を行っている団体と協力しあって行事等を行います。 【                   】	行事や講座等を企画する際は、各世代が交流できるような工夫をします。 【                   】	企画した行事を通じて、知り合った人に声をかけたり、参加の方法(時間の提供、技術の提供、アイデアの提供)を柔軟に考え、活動者を増やします。 【'98愛ネットワーク】
行政		にしく市民活動支援センターを中心に団体間の連携と活動の活性化を図ります。	地域活動をおこなっている団体の活動を紹介し、団体どうしが共に活動するきっかけをつくれます。		
	区社会福祉協議会	当事者やテーマ型の団体が地域生活に密着した活動を行えるよう、地域と連携できる仕組みづくりに取り組めます。		西区ボランティアセンターとして、新たな活動者育成のための研修や講座を実施します。西区在住者に限らず、在学・在勤者(企業)とも一緒に活動できる場面作りをします。	
地域ケアプラザ		地域の団体、ボランティアグループ、サービス提供事業者等が交流できる場を提供します。		様々な世代を対象とした事業を実施し、地域とつながりがもてるよう支援します。	ケアプラザまつりや講座等様々な世代が参加する場を通じて、ボランティアを発掘、育成します。

## 基本目標5 子どもが健やかに成長できるまち

### 小目標

- ① 自分のからだを大切にする
- ② 良いこと、悪いことの判断力を身につける
- ③ 周りの大人は、子どもを気かけ、声かけや見守りをする
- ④ 子どもは自分やみんなの子どもとしてみんなで育てる



～第2期計画の重点推進目標～

子どもは自分やみんなの子どもとしてみんなで育てる

### 6年後の目標値

- ◆地域と子どもが交流する機会を増やします。
- ◆地域と学校、幼稚園、保育園の交流の機会を広げます。 交流回数増

### 目標達成への方向性

第1期計画の5年間で、西区の0～6歳の子ども数が大きく増加し、区民の子育て支援へのニーズは高まっています。

地域では、親子のふれあいや交流の場の提供、子育て情報の発信などが各団体・行政により行われています。

第2期計画では、子どもが幼い頃から地域との関わり方を学び、自分が周囲の大人から見守られていると感じ、心豊かに健やかに成長できるまちを目指します。

また、西区地域子育て支援拠点(22年度開所予定)を中心に子育てに関する取組を行う団体がネットワークをつくり、子育て中の親の頑張りを地域で支えます。

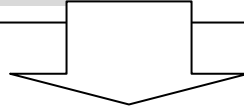
目標達成に向けた取組

		地域と子どもが交流する機会を増やします。		地域と学校、幼稚園、保育園の交流の機会を広げます。	
		子どもを見守る	健全な心の育成	団体の連携	相談できる場を増やす
個人		幼少の頃から地域の行事に参加し、近隣の人と顔見知りの関係を築きます。	大人から声をかけ、見守ることで、子どもは自分が大切にされていると感じ、思いやりを学びます。		
	団体	地域で子どもを見守る大人が増えるよう働きかけ、地域と子どもをつなぎます。 【PTA、主任児童委員 …】	様々な体験を通じて、社会のマナーやルールを学び、豊かな心を育む機会をつくります。 【幼稚園・保育園】	各地区で行われている子育て支援の取組が広がるよう互いに協力し合います。 【児童福祉関係分科会 …】	子育ての悩みを受け止め、子育て世代が孤立することのないよう支援します。 【幼稚園、保育園 …】
行政		赤ちゃんの時から地域とのつながるきっかけづくりを支援します。(こんにちは赤ちゃん事業・赤ちゃん教室)	学校と連携し、命の大切さを学ぶ機会を増やします。(小学生～中学生)	西区地域子育て支援拠点を中心とした団体のネットワークづくりに取り組みます。	身近な子育て支援の場として、保育園の保育機能の充実を図ります。(未就学児)
	区社会福祉協議会	地域ぐるみで子育てを支援する関係を作っていきます。(親子ふれあい会)	生徒を対象とした福祉教育の中で、福祉についての理解を深めていきます。	子育て支援拠点とともに関係施設・団体と連携し支援の輪を広げます。	子育てに関する情報提供や関係機関との連携を深めます。
地域ケアプラザ		デイサービス等の地域の利用者と子どもが交流できる場を提供します。	小中学生の福祉体験の場を提供し、地域とつながるきっかけをつくります。		親子支援の講座や事業を実施し、子育てに関する情報提供や楽しく活動できる場をつくります。

## 基本目標6 必要な情報が正確に伝わるまち

### 小 目 標

- ① 地域の活動、行政の情報がいろいろな手段で伝わる
- ② 自分自身に必要な情報を選択する



～第2期計画の重点推進目標～

自分自身に必要な情報を選択する

### 6年後の目標値

- ◆地区別、対象者別、年代別に情報をわかりやすく提供します。
- ◆インターネットに情報を掲載する団体数を増やします。
- ◆身近に情報を入手できる施設や拠点があることを伝えます。 団体数増

### 目標達成への方向性

第1期計画の5年間で、インターネットを利用する区民は増えていますが、広報紙・掲示板も情報を得る手段として多くの区民に利用されています。また、顔見知りの人から聞く口コミも情報を得る重要な手段です。

一方で、様々な媒体から様々なレベルの情報が数多く提供されている状況です。

自分の地域で行われている活動について知り、参加するきっかけとしていくこと、支援を求めたいときにその情報を得ることができることなど、一人ひとりが必要とする正確な情報を手に入れることができるための工夫が必要です。

第2期計画では、区民が自分自身に必要な情報を選択できるよう、情報を整理し、わかりやすく伝える取組みを進めます。

# 目標達成に向けた取組

個人	<p>地区別、対象者別、年代別に情報をわかりやすく提供します。</p>	<p>インターネットに情報を掲載する団体数を増やします。更新し、正確な情報を伝えます。</p>	<p>身近に情報を入手できる施設や拠点があることを伝えます。</p>
	<p>情報を入手しにくい高齢者等には、自分が知っている情報を伝えます。</p>		<p>情報がどこに集まっているのか、日頃から関心を持ち、家族や身近な人に伝えます。</p>
団体	<p>情報の受け手側にあわせた情報発信の方法を工夫します。 (掲示板、回覧板、ちらし、ホームページ等)  【シャーロックホームズ…】</p>	<p>地域情報をおとしたマップや情報カレンダーなどは随時更新をし、タイムリーな情報を伝えます。  【e ネットにし探検隊、第6地区子育て分科会、子育てプロジェクトにじ…】</p>	<p>子育て支援、健康づくりに関すること、介護に関する事等、団体が把握している情報を伝えるとともに、区役所や地域ケアプラザ、福祉保健活動拠点、地区センター等入手できる場所を紹介します。  【           】</p>
	<p>広報、ホームページ、ちらし等手段を変えて、必要な人に情報が届くよう工夫します。また、情報を発信したい団体と発信手段を持っている団体をつなげるしくみをつくります。</p>	<p>地域のイベント情報や区役所の事業等、広報よこはま区版やホームページでタイムリーな情報を伝えます。</p>	<p>身近な地域で情報が得られる施設や拠点があることを窓口や広報等を通じて広く伝えます。</p>
行政	<p>収集した情報を整理し発信します。情報の入手が困難な人にも受け取りやすい工夫をして発信します。地域の団体等の情報発信を支援します。</p>	<p>広報紙「もくせい」やボランティア情報紙、チラシ、区社協ホームページなど、さまざまな媒体をつかって情報を発信していきます。</p>	<p>他機関からの情報を整備し提供します あわせて、身近な地域で情報が得られる拠点あることを広く伝えます。</p>
	<p>対象者に合わせて、地域へ出向いて情報を伝えたり、掲示板を活用する等、情報発信の方法を工夫します。</p>	<p>広報紙の発行、ホームページの更新により地域に情報を発信します。</p>	<p>情報発信をする団体の後方支援を行い、インターネット、パソコン等を学ぶ場を提供します。</p>
区社会福祉協議会			
地域ケアプラザ			



# 4 地区別計画

## 第1地区



### ～地区の特徴～

掃部山公園、岩亀稲荷、御所五郎丸の墓など歴史的な名所と横浜能楽堂や県立音楽堂など文化施設が多い地区です。

古い町並みとマンションなどの新しい町並みが共存しています。

人口：10,399人（西区人口の11.2%）世帯数：6,047世帯  
65歳以上人口：2,001人（地区人口の19.2%）

出生数：98人 6歳未満人口：503人（4.8%）

7歳～15歳未満人口：470人（4.5%）（平成20年9月末現在）

### 現在の地区の取組

- ・ まもり隊、元気かい、ふれあい会（子どもや高齢者の見守り）
- ・ 健民祭に活気がある。（対抗リレーなど）
- ・ 虫の音を聞く会、納涼の夕べ、戸部小学校と地域の高齢者との交流会（行事やおまつりや行事を通じた地域の交流）
- ・ とべとべサロン（親子ふれあい会）

～防災訓練の様子～



～まもり隊写真もしくは説明～

～元気かい～

～とべとべサロン～

～納涼の夕べ～



### 地区の課題

- （安心安全なまちづくり）・路地が狭い、古い町並みが残っているところがあり、防災面で注意が必要  
・分別などのごみ出しのルールを守らない・見守り活動に若い世代の参加が少ない。
- （地域の担い手づくり）・町内会役員の高齢化・次世代の担い手不足・商店街に元気がない。  
・町内会に加入しない人が増えている・町内会に加入しても、地域の行事に参加しない人が増えている。
- （みんなが共存するまち）・道が平坦ではなく、歩行が困難なところがある。
- （地域がつながりをもつまち）・転入者など住民どうしの交流・ワンルームマンション居住者等との交流
- （子どもが健やかなまち）・核家族が増えて、気軽に相談したり、預けあう関係がもてない。  
・子どもの母親たちは日中働いている人が増え地域と顔見知りの関係になりにくい。
- （情報が正確に伝わるまち）・転入者に地域の情報が伝わりにくい。



## ～地区の目標～

**(目標1) むこう三軒両隣 みんなで楽しく暮らせるまちづくり**

**(目標2) それぞれの世代が継続して参加できるしくみづくり**

### 具体的な行動計画

(目標1)

**町内会の活動を活発にし、みんなが参加できるまちづくり**

- (1) 転入者の方に町内会の活動を知ってもらえるよう、身近な人が継続的に働きかけます。
- (2) 掲示板や口コミなどで地域の情報や町内会の活動をPRし、ともに活動を行う人を増やします。
- (3) 大事な情報は回覧板を回す時に、注意を引く印をつけるなど伝え方を工夫します。
- (4) マンションの建設時などに、町内会への加入を促すしくみづくりに取組みます。
- (5) 町内会の部会で、子ども会と女性部の中間的な組織づくりなど、継続して活動できるしくみを考えます。

**安心安全なまちづくり**

日頃から、一人暮らしの高齢者の見守り活動等（ふれあい会）で要援護者の把握に努め、地域の事業所などとも協力しあい、防災をキーワードとした地域づくりを行います。

(目標2)

**新旧住民の交流を促し、近隣で声をかけあい、顔見知りの関係が広がるしくみづくり**

- (1) 健民祭などの多くの人気軽に参加できる行事や地区内の歴史的な名所を生かした行事を通じて、世代をこえた交流をさかんにします。
- (2) 若い世代間で声をかけ合い、地域行事へ参加する人を増やし、顔見知りの関係になるきっかけを作ります。
- (3) 地域とのパイプ役になってくれる人や次世代の担い手を育成し、地域で交流を継続していきます。

**子どもが地域の中で健やかに育つまちづくり**

- (1) 親子で一緒に子ども会の行事などに参加しやすい雰囲気づくりをします。
- (2) 戸部小学校での語り部活動など、学校と協力しながら、子どもが地域の人と交流し、自分の住む地域を理解する機会をつくります。
- (3) 地域の中で、小学生、中学生、高校生がそれぞれ役割を持ち、活動に参加できるよう支援します。

～区役所の取組～

～区社協の取組～

～地域ケアプラザの取組～

地区別計画を支援するための取組  
を今後記載します。

## 第2地区



### ～地区の特徴～

区役所に近く、医療機関・商店街・小中学校・幼稚園が揃い住宅が密集しています。国道1号線に近く比較的平坦な地区です。  
人口：9,085人（西区人口の9.8%）世帯数：4,233世帯  
65歳以上人口：1,721人（地区人口の18.9%）  
出生数：78人 6歳未満人口：530人（5.8%）  
7歳～15歳未満人口：451人（5.0%）（平成20年9月末現在）

### 現在の地区の取組

- ・ふれあい会（高齢者の見守り）
- ・保健活動推進員中心に毎月第2日曜日にウォーキング開催
- ・商店街にある交流の場「らいぶステーション」
- ・「ふれあいの夕べ」の開催
- ・ほっと幸せ会（配食サービス）
- ・商店街で品出し禁止へのキャンペーンの実施
- ・ハザードマップの作成

～懇談会の様子～



～ふれあい会～

～ウォーキングの日～

～らいぶステーション～

～ほっと幸せ会～

### 地区の課題

- (安心安全なまちづくり)・隣近所の人がわからない。 ・商店街の路上駐車が多い。  
(地域の担い手づくり) ・町内会役員のなり手がいない。 ・行事参加者の顔ぶれがあまり変わらない。  
(みんなが共存するまち) ・商店街の通路で車いすやベビーカーの人などが通りづらい所がある。  
(地域がつながりをもつ) ・町内会未加入者の増加  
(子どもが健やかなまち) ・子どもが少ない。  
・子どもが大きくなったら転居してしまうことが多い。  
(情報が正確に伝わるまち) ・情報を流しても行事の参加につながらない。 ・回覧板を読まない人が多い。  
・回覧板の情報が多すぎて読みづらい。

## ～地区の目標～

# 心の通いあった明るく楽しいまちづくり

## 具体的な行動計画

### 災害に強いまちづくり

- ・ 自分たちのまち、第2地区を知るためのまち歩き（ウォーキング）やハザードマップの作成をします。
- ・ 地域での顔見知りを増やすために家庭の中からあいさつ運動・地域の子ども達へのあいさつ運動を始めます。

### 緑の多いきれいなまちづくり

- ・ 防災や防火にも役立つように家庭や地域で緑を植えます。
- ・ スポンサー付きの木を植える等、様々な工夫をして緑を増やします。

### 情報が正確に伝わるまち

- ・ 地域の広報紙を作ります。（区の窓口で配布してもらえるように働きかけます。）
- ・ 転入時、町内会の必要性や加入のメリットを伝えていきます。
- ・ マンション建設時に、町内会への加入を促すしくみづくり  
（町内会の加入を行政からも勧めてもらえるよう働きかけます。）

### 戸部公園を中核としたまちづくり・つながりづくり

- ・ 自主的な楽しいイベントとなる清掃活動を行います。
- ・ 地域のお祭りなどの行事への参加を呼びかけ、交流を図ります。

～区役所の取組～

～区社協の取組～

～地域ケアプラザの取組～

地区別計画を支援するための取組  
を今後記載します。

## 第3地区



### ～地区の特徴～

藤棚商店街から久保山にかけて急傾斜の山坂を持ち、狭小な道が多い地区です。地区内には、3つの商店街が連なり、16の町内会があります。

人口：16,473人（西区人口の17.8%）世帯数：7,056世帯

65歳以上人口：4,329人（地区人口の26.2%）

出生数：85人 6歳未満人口：662人（4%）

7歳～15歳未満人口：970人（5.8%）（平成20年9月末現在）

### 現在の地区の取組

- ・ 防犯パトロール ・ 地域での子ども達の見守り
- ・ 高齢者の見守り ・ 地域でのごみ出しの協力
- ・ 老人クラブ単位での体操教室の開催
- ・ キティクラブ（子育て支援）
- ・ 小中学校から地域へ行事の参加招待
- ・ 東久保町夢まちづくり協議会による災害時危険箇所のチェック  
やかまどベンチ・雨水タンクの設置など

### ～懇談会の様子～



～ふれあい会～

～老人クラブ単位の体操教室～

～キティクラブ～

～東久保夢まちづくり協議会～

### 地区の課題

- （安心安全なまちづくり）・ 高齢者世帯が多い。  
・ 単身者のごみ出し ・ 商店街の路上駐車が多い。
- （地域の担い手づくり）・ 町内会役員の高齢化 ・ 次世代の担い手不足
- （みんなが共存するまち）・ 車いすやバギーで買い物に来る方が増えたが店前に商品が山積みで車いす等が通りづらい。
- （地域がつながりをもつまち）・ 転入者と地域のつながりが薄い ・ 地域と商店街の交流が少なくなった  
・ 山坂が多く、交通手段も無く、高齢者が地域の食事会などに参加しにくくなっている。
- （子どもが健やかなまち）・ 子どもが少ない。
- （情報が正確に伝わるまち）・ 転入者に地域の情報が伝わりにくい。

## ～地区の目標～

**(目標1) 福祉施設が多くできたこの地区の特徴を活かして、さまざまな人がふれあえるまち**

**(目標2) 山坂が多い地形でも、高齢者や障がい者が外出しやすいまちづくり**

### 具体的な行動計画

(目標1)

- (1) 防災訓練や公園清掃など行事を通じた障害者と地域とのふれあいの場づくりをすすめます。
- (2) 将来を担う子ども達を地域で温かく見守り育てていきます。
- (3) 世代や団体を超えてつながりを広げるために、第3地区文化祭の開催を目指します。
- (4) 既存のさまざまなマップの情報を取り入れて、第3地区での暮らしの便利マップを作り、地域住民に配布します。
- (5) 地域の資源である福祉施設や商店街などに協力してもらい、高齢者や障がい者が生活しやすいまちづくりをすすめます。

(目標2)

- (1) 高齢者の見守り訪問など地域での助けあい・支えあい活動を強め、続けます。
- (2) 高齢者や障がい者が外出しやすいように、地域内の福祉施設などが協力しあい、地域内で誰もが使えるトイレ・休憩場所を増やします。
- (3) 高齢者や障がい者が外出しやすいように、坂道への休憩ベンチや手すりの設置を目指します。
- (4) 宅配や電球交換など、高齢者の生活を支えるサービスを考えます。

～区役所の取組～

～区社協の取組～

～地域ケアプラザの取組～

地区別計画を支援するための取組  
を今後記載します。

## 第4地区



### ～地区の特徴～

野毛山公園周辺には中央図書館や動物園があります。山坂が多く、道路が狭小な箇所があります。

人口：15,083人（西区人口の16.3%）世帯数：8,627世帯

65歳以上人口：3,578人（23.7%）

出生数：116人 6歳未満人口：716人（4.7%）

7歳～15歳未満人口：912人（6%）（平成20年9月末現在）

### 現在の地区の取組

- ・ 「みんなのまつり」やコンサートの開催  
（地区社会福祉協議会主催、地区自治会連合会共催）
- ・ 各町内会での防犯パトロール
- ・ 高齢者の見守り
- ・ 学校主催の地域との交流行事
- ・ 子育てサロンの開催
- ・ 地区社協とふれあい会合同の地区別の食事会の開催

～懇談会の様子～



～みんなのまつり～

～コンサート～

～子育てサロン～

～ふれあい会～

### 地区の課題

（安心安全なまちづくり）・単身高齢者が多い

・ 狭小な道が多く、ごみ出しや緊急時の問題がある ・ 認知症高齢者の増加

（地域の担い手づくり）・町内会役員の担い手不足

（みんなが共存するまち）

（地域がつながりをもつ）・転入者と地域のつながりが薄い

・ 山坂が多く、参加してほしい方が参加しにくくなっている。

（子どもが健やかなまち）・子どもが少ない。

・ 子ども関係の活動が手薄になっている。

・ 子育て家庭の母親が孤立感を感じている

（情報が正確に伝わるまち）・インターネットで情報は氾濫しており、逆に必要な情報を選ぶことが難しい。

## ～地区の目標～

**(目標1) みんなが自分のできることから始めるまちづくり**

**(目標2) 世代を超えて思いやりのあるやさしいまちづくり**

**(目標3) いつまでも元気で暮らせるまち**

### 具体的な行動計画

(目標1)

- (1) 地域の子どもたちにあいさつなど声をかけます。
- (2) 災害時の要援護者へのサポート体制を考えます。

(目標2)

- (1) 子育てに対する地域の情報など必要な情報を伝える工夫を考えます。
- (2) 高齢者と子どもたちとのふれあいの場を設けます。
- (3) 地域の子どもたちにあいさつなど声をかけます。
- (4) 若い人への地域活動への参加の呼びかけ方を工夫します。

(目標3)

- (1) 高齢者の地域での見守り体制を調整し、組織間の取組の重複を避け、計画的な実施を目指します。
- (2) 災害時の要援護者へのサポート体制を考えます。
- (3) プランターに花を植えます。

～区役所の取組～

～区社協の取組～

～地域ケアプラザの取組～

地区別計画を支援するための取組  
を今後記載します。

## 第5地区



### ～地区の特徴～

横浜駅周辺に位置し、デパート、商店、繁華街、銀行等の高層ビルでにぎわう場所で、高齢者もビルの上層階に住んでいる人が多い。

人口：15,536人（西区人口の16.8%）世帯数：9,029世帯

65歳以上人口：2,044人（地区人口の13.2%）

出生数：149人 6歳未満人口：914人（5.9%）

7歳～15歳未満人口：760人（4.9%）（平成20年9月末現在）

### 現在の地区の取組

- ・ さわやか清掃（岡野）、平沼小見守り隊、駅の清掃活動
- ・ 高齢者の交流の機会（友愛活動推進員や食事サービスグループ）
- ・ 町内会と商店街が協力し取り組んでいる災害時の対応
- ・ 老人クラブ、グランドゴルフなど幅広い年齢層で運動がさかん
- ・ 保健活動推進員を中心としたウォーキングへの取組
- ・ 地域の防災訓練への作業所の参加
- ・ 岡二フェスティバル、水天宮のおまつり、芋煮会
- ・ 親子ふれあい会（子育て支援の場で地域情報を伝えている。）

～懇談会の様子～



～さわやか清掃～

～水天宮のおまつり～

～ウォーキング～

～親子ふれあい会～

### 地区の課題

（安心安全なまちづくり）・横浜駅周辺では人の出入りが多く、防犯面で心配。

- ・ 災害時の帰宅困難者の問題
- ・ 高齢者などの把握が困難

（地域の担い手づくり）・町内会役員の高齢化 ・次世代の担い手不足・1人の人が複数の役割を担っている。

（みんなが共存するまち）・障害者に地域の行事の情報が届きにくい。

- ・ 障害者からの情報発信が不足しており、活動が見えにくい。

（地域がつながりをもつ）・高齢者どうしの交流が希薄・転入者と地域のつながりが薄い

- ・ 団体間の交流が少ない
- ・ マンションでの交流が少ない。

（子どもが健やかなまち）・子どもが増えて学校で教室が不足している。

- ・ マナーを知らない子どもがいる。

（情報が正確に伝わるまち）・転入者に地域の情報が伝わりにくい。



## ～地区の目標～

**(目標1) 気持ちよくあいさつができて顔の見える安心できるまち (町)**

**(目標2) 世代・新旧・企業を交えた (共に過ごす) まち (町) づくり**

### 具体的な行動計画

(目標1)

- (1) 子ども、若い世代があいさつする習慣を身につけます。あいさつをし、声をかけあいます。
- (2) 一声運動で知らない人にも声をかけます。
- (3) お祭りで知り合ったり、町内会の行事と一緒に取り組みます。
- (4) 団体が互いの活動を伝え合います。
- (5) 新築マンションに転居してくる人に町内会の活動を事前に伝えます。
- (6) 「にこやか しあわせ 暮らしのうた」を広めます。

(目標2)

- (1) 季節ごとのイベント (お祭り、餅つき)、スポーツを通じて知り合います。行事に家族で参加します。
- (2) イベント参加者へ声をかけ、担い手に誘います。
- (3) 町内会の役員になる人を増やします。
- (4) 子どもにイベントやお祭りを通じて、地域の人顔を知ってもらい、地域との関り方を伝えます。子ども会の活性化を図ります。
- (5) 企業と住民が地域の清掃活動に共に取り組むなど、企業とのつながりを大切にします。

～区役所の取組～

～区社協の取組～

～地域ケアプラザの取組～

地区別計画を支援するための取組  
を今後記載します。

## 第6地区



### ～地区の特徴～

西区の中で一番人口の多い地区。神奈川区、保土ケ谷区と接しており、地形は山坂が多い地区です。15歳未満人口の割合が高く、65歳以上人口の割合が区平均よりやや低くなっています。

人口：22,086人（西区人口の23.8%）世帯数：11,731世帯  
65歳以上人口：3,831人（地区人口の17.3%）  
出生数：233人 6歳未満人口：1,392人（6.3%）  
7歳～15歳未満人口 1,384人（6.3%）（平成20年9月末現在）

### 現在の地区の取組

- ・ 浅間台小学校と高齢者との交流
- ・ 町内会から神輿が出て盛大な浅間神社のおまつり
- ・ 防犯パトロール（警察、消防団と連携）
- ・ 焼き芋大会で地域の交流をはかる
- ・ 健民祭で幅広い年代層の交流
- ・ ママのホットステーション（親子ふれあい会）
- ・ 西ともしびの会食会での小・中学生との交流

～懇談会の様子～

～浅間神社のおまつり～

～健民祭～

～ママのホットステーション～

～西ともしびの会食会～

### 地区の課題

- (安心安全なまちづくり)・ひとり暮らし高齢者の把握が困難・ごみ出しのルールを守らない。  
・ 近隣に住んでいる人の顔がわかりにくい。
- (地域の担い手づくり)・町内会役員の高齢化・次世代の担い手不足・自治会町内会に関心のない人が増えている。・1人の人が複数の役割を担っている。  
・ 老人クラブの会員が減少
- (みんなが共存するまち)・地域の中で立ち寄れるトイレが少ない。
- (地域がつながりをもつ)・転入者と地域のつながりが薄い。・マンションでの交流が少ない。  
・ 団体どうしの活動が見えにくい。・活動が重複している。
- (子どもが健やかなまち)・働く親が増えるなど、子ども会の担い手不足
- (情報が正確に伝わるまち)・転入者に地域の情報が伝わりにくい。・回覧物が多すぎる。・情報を受け取る

## ～地区の目標～

人と人のつながりを大切にコミュニケーションのある  
まちづくり

### 具体的な行動計画

#### ～皆さんの参加をお待ちしています～

町内（会）への関心を高め、人とのつながりをつくります。

- (1) 町内会の活動へ気軽に参加できるよう、いろいろな場所・機会を通じて声かけ、参加しやすい雰囲気づくりに取り組みます。
- (2) おまつりや健民祭、敬老の日など地域の行事への参加をきっかけに近隣の人と顔見知りになります。
- (3) 防犯・防災への取組をすすめます。
- (4) 町内会行事の中で子どもの活動をPRして親子での参加を呼びかけます。

町内会の情報の伝え方を工夫します。

- (1) 掲示板や回覧板で、地域の情報を伝える時、連絡先をわかりやすく記入したり、行事の日程等は早めにお知らせします。
- (2) 若い世代や転入者に町内会の活動を知ってもらえるよう、広報紙や声かけなど働きかける方法を工夫します。

子どもから高齢者まで世代を越えて、みんなが地域の活動を担います。

（地域活動の担い手を増やします。）

- (1) 子ども会や少年部の活性化のために町内の相談役が支援し、将来的に地域のリーダーになれるような人を育てていきます。
- (2) 若い世代と高齢者が交流する機会を町内でコーディネートします。
- (3) 地域の行事の企画をする時に女性部、子育てが落ち着いた人、子どもや若い世代、新しい参加者に声をかけ、みんなが関心を持って楽しく参加できる工夫をします。
- (4) 町内の活動（班長、子ども会役員等）への参加をきっかけに引き続き「自分ができること」を手伝ってくれる人や若い世代でも仕事をしながらできる範囲の活動に参加してもらう働きかけをし、担い手を増やします。

～区役所の取組～

～区社協の取組～

～地域ケアプラザの取組～

地区別計画を支援するための取組  
を今後記載します。

## みなとみらい21地区

### ～地区の基本的なデータ～

人口：6,764人 西区人口の7.3%      世帯数：3,344世帯  
65歳以上人口：652人（地区人口の9.6%）      出生数：76人  
6歳未満人口：510人（7.5%）  
7歳～15歳未満人口      233人（3.4%）（平成20年9月末現在）

地区の特性・課題について、地区の方にご意見を伺いながら、記述していきます。



## 5 推進と評価

○計画の推進

○計画の評価

計画の推進・評価の方針、体制については、  
今後記載します。

## 第3章 第1期計画の振り返り

### 基本目標1 安全が確保され、安心なまち

#### ～個人の取組～

##### アンケート結果まとめ

「西区は治安が良く、安全が確保されたまちだと思う」と回答した人の割合が 56.7%と平成 15 年度に比べると 18.6 ポイント増加しました。

「公共の乗り物でのマナーを守る」と回答した人の割合が平成 15 年から 3.3 ポイント減少しているほか、「ごみ出しのルールを守る」「ポイ捨てをしないというルールを守る」も目標達成まで 20 ポイント以上の開きがあります。

##### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・ 住宅密集地に住んでおり、地震が起きた時の逃げ場がなく、不安を感じている高齢者が多い。
- ・ 路地が狭く、救急車が入れないところもあり、防災面で注意しなければならないところがある。
- ・ 横浜駅周辺では人の出入りが多く、防犯面で心配。
- ・ 個人情報の問題があり、高齢者などの把握が困難になっている。

##### 区民からよせられたアイデア

- 知らない人どうしてもあいさつができれば、防犯性も高まり、何かあった時も話しやすくなる。
- まず、顔見知りになり、はじめてコミュニケーションがとれる。

#### ～団体・行政の取組～

##### 目標 1 に対する取組数

【平成 17 年度】 → 【平成 20 年度】

86 件増                      160 件                      246 件

##### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【町内会】地域の防犯パトロールを強化

【子ども会】集団下校時のあいさつ運動（各単位会）を実施

【老人クラブ】友愛活動で高齢者の見守り

【ふれあい会】見守られる人と見守る人との輪ができ、町内会活動の活発化につながりました。

【区役所】「こども 110 番の家」の登録数年々増えています。また、学校との交流会を 5 校で実施しました。

【区社会福祉協議会】（障害福祉関係分科会）自分たちや地域ができることについて話し合い、「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」を作成しました。  
災害ボランティアネットワークを立ち上げました。

## 基本目標2 活気にあふれ、健康なまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

「自分が健康だと感じている」と回答した人の割合や「生活習慣病などが特にない」と回答した区民の割合はやや増加しています。

「過去1年の間に健康診断を受けた」と回答した人の割合に増減はありませんでした。健康診断を受けなかった理由として、「忙しくて受けられない」「費用が高くて受けられない」と回答した割合が高くなっています。

健康維持のための運動への取組は5.6ポイント減少し、バランスの良い食事など食生活の改善に取り組んでいる人の割合は3.8ポイント増加しています。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・ 健康診断を受けたいが、忙しくて受ける時間がない。
- ・ ひとり暮らしの高齢者は食事づくりが面倒になりがちで、3食食べないことが多い。
- ・ 子どもが小さいとなかなか運動する機会が少ない。

#### 区民からよせられたアイデア

- グランドゴルフなど幅広い世代が取組めるスポーツを通じて、地域で健康づくりを進めている。
- 町内会で体操教室に取り組んでいる
- 毎日少しずつ意識して、体を動かしたい。スポーツセンター等も利用したい。
- 近くの公園で行われているラジオ体操に参加している。朝規則正しい時間に活動をはじめ、近隣の人とも顔なじみになる。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標2に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

160件増            112件            272件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

- 【医師会】禁煙外来を開設したり、紹介しました。
- 【食品衛生協会】食中毒防止キャンペーンを開催しました。
- 【生活衛生協議会】区民まつりで健康増進についてPRしました。
- 【保健活動推進員】ウォーキングの日設定等により区民の運動習慣の定着化を図っています。
- 【さくら連絡会】リハビリのために行っているゲートボールを始める前に、血圧測定をして健康管理に力を入れている。
- 【区役所】ウォーキングを日常習慣化するため、マップやスタンプ帳などの啓発物品を作成

## 基本目標3 一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

「障害者（児）の方と共に活動を行う機会があった」、「これから参加したい」と思う割合が共に減少しています。

「ちょっと困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や友人がいる」と答えた割合も 4.6 ポイント減少しました。また、異なる世代との交流への参加の意欲について参加したいという人の割合は減少しています。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・支援が必要な人が何に困っているのかがわからない。
- ・障害児と地域で活動する機会が少ない。
- ・山坂が多い地域では、高齢になると遠くまで買い物に行ったり、ごみ出しすることや分別が大変になる。

#### 区民からよせられたアイデア

- 障害者が自分の活動内容を地域に情報発信することが大切である。
- 頼まれればできることがあるが、困っている人がどこにいるのかがわからないので、橋渡しをしてくれる人が身近にいるとよい。
- 近隣で隣組のような組織を作り、困った時に近くで必ず連絡ができる人がいて、電話をすれば、まず聞いてくれるようなしくみづくり。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標 3 に対する取組数

【平成 17 年度】 → 【平成 20 年度】

21 件増                      124 件                      145 件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

- 【手話サークル西】講演という形で多くの聴覚障害者の話しを聞き、手話技術だけでなく、聴覚障害者をより深く理解しています。
- 【はーとメンバーズ】ピアカウンセリングの場を広めています。
- 【まつぼっくり会成人部】地域のお祭りへ参加しています。
- 【小学校】運動会種目に車椅子を取り入れる等車椅子体験学習の実施
- 【みらい工房西】地域の小中学生と交流を持ち、障害についての理解を深めてもらいました。
- 【区役所】障害者団体と協働で、区民向けの障害の理解に関する啓発講座を行いました。
- 【区社会福祉協議会】(障害福祉関係分科会)障害理解に関する啓発のため、「障害者週間キャンペーン」を実施しています。



## 基本目標4 地域全体がつながりを持つまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

「ちょっと困っている人に行っていること」について、「すでに支援を行っている」とした割合は増えています。約6割の人が「困ったことがあった時、近隣の方に助けてもらいたい」と答えており、近隣の助け合い活動を行っていない人と困っている人を結びつけるしくみづくりが必要です。

また、「地域の中で自分の世代とは違った方と共に活動する機会があれば、参加したい」とした割合は2.5ポイント減少しています。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・地域活動は活発だが、各団体が縦割りになっている。互いの活動を理解しあう機会が少ない。
- ・なみの人が複数の役割を担っており、忙しすぎて町内会活動を広く知ってもらう情報を発信でき転居してきた人は地域に知り合いが少なく、地域の行事に参加するきっかけづくりが難しい。

#### 区民からよせられたアイデア

- 地域の行事をおこなう際に、地区社会福祉協議会を中心に各団体が連携して企画・運営をし、地域に根付いている。団体をまとめる機能が大切。
- 高齢者の見守りや子育て支援など、民生委員・児童委員だけでなく、自治会町内会役員、友愛活動推進員、更生保護女性会、ボランティアなどが役割分担し、一緒に取り組んでいる。
- 力仕事、料理上手、電気関係に詳しいなど自分の得意分野を生かし、町内で助け合う。掲示板などを活用し、広く活動内容を周知する。また、退職したばかりの人に地域活動の参加を促す。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標4に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

31件増

60件

91件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【食事サービスグループ】定例会を設けて意見交換しています。

【保育園】研修会等に参加し、他園との連携を結ぶ機会をつくっています。

【ケアプラザ】企業ボランティアと高齢者や介護者を対象とした事業を企画実施しています。

【区社会福祉協議会】テーマ別分科会（地区社協・高齢・障害・児童・ボランティア市民活動）を開催し、地域・施設・団体の連携を図り、情報交換を行うほか、研修・MAPづくり・イベント等を実施しています

【区役所】子ども関係団体が連携しやすい仕組みづくりを検討しました。

## 基本目標5 子どもが健やかに成長できるまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

未成年の喫煙については、「ほとんど見かけない」と回答した割合は8.8ポイント増えましたが、21年度においても「よく見かける、時々見かける」と回答した人が49.1%であり、引き続き未成年の喫煙防止に取り組んでいく必要があります。

子どもへの声かけ（0.9ポイント増）については5か年での大きな変化はありませんでしたが、子どもへ注意できるかについては、3.7ポイント減でした。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・子どもの数が減っている地域では、子ども会活動が困難になっている。一方、子どもの数が増えているところでは幼稚園の数や小学校の教室が不足している。
- ・道路を歩く時のマナーやポイ捨てなどルールを守らない子どもがいる。
- ・転居してきて周囲に知人がおらず、子育てに悩んでいる親がいる。

#### 区民からよせられたアイデア

- 子育て支援の場で自治会町内会の活動を伝え、若い世代への地域情報の伝達を行い、地域が子どもたちを見守っていることを教えている。
- 自治会町内会を年代別に部会に分けて、子どもの頃から地域の活動に参加し、地域への理解を深めるとともに、世代間でマナーやルールを教える。
- 声かけを積極的に行い、あいさつをしなかった子どもも顔見知りになると、信用しあいさつを返してくれるようになった。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標5に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

43件増

75件

118件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【歯科医師会】学校歯科医、幼稚園歯科医が食育についての講話の機会を見つけ実施しています。

【小学校】学校保健委員会で早寝早起き朝ごはんについて啓発、6年生の薬物防止教育に取り組んでいます。

【子育てプロジェクトにじ】地区社協と連携し、ケアプラザで3世代交流を実施しています。

【地域ケアプラザ】

【食生活等改善推進委員会】子どもや若い世代とのふれあい交流を通じた健康づくりの普及を行っています。

【区社会福祉協議会】（児童福祉関係分科会）子育て支援を行う団体向け研修会を実施しました。

【区役所】子育てに関わる団体同士の連携のきっかけづくりのため、リーフレットを作成

## 基本目標6 必要な情報が正確に伝わるまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

西区からのお知らせや情報の入手方法として、ホームページから得るとした割合が1.6ポイント増加しました。一方、広報よこはま西区版（6.2ポイント減）、回覧板（9.5ポイント減）、区役所窓口のチラシ（7.4ポイント減）といずれの入手方法も減少しています。

「インターネットを活用している」と回答した割合は平成19年48%が21年度には55.1%と7.1ポイント増加しました。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・ 情報量が多すぎて、何が必要な情報なのかわかりにくい。
- ・ パソコンを利用しない人もいるので、掲示板や回覧板などを活用するが、枚数が多く、正しい情報が伝わりにくい。
- ・ 身近な地域での情報や団体の活動を伝える方法がない。

#### 区民からよせられたアイデア

- ホームページに自分ができるボランティア内容などを掲載し、支援が必要な人が情報を得る。
- バス停や病院など待ち時間であれば、掲示されているチラシをよく読む。より広く知ってもらいたい情報はチラシを掲示する場所を工夫する。
- 若い世代は、パソコンや携帯電話のメールなどから情報を得る傾向がある。
- 近隣の人から行事に誘われたり、同じ世代の人から聞く口コミ情報が信頼感を得やすい。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標6に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

34件増

36件

70件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【薬剤師会】 ホームページを通じた情報提供をしました。

【更生保護女性会】 子育て支援の場で母親たちに情報を伝えました。

【獣医師会】 野良猫問題について相談を受け、一緒に考える会があるということを伝えました。

【eネットにし探検隊】 eネットにし探検隊では各地区で行われている地域に密着した行事や団体の活動をまとめて、わかりやすい情報を発信しました。

【区役所】 広報よこはま西区版のページ数を増やし、タイムリーな情報を掲載し内容の充実を図りました。

【区社会福祉協議会】 ホームページを改訂し内容の充実を図りました。新たにボランティア情報紙を発行しました。情報支援のための団体向けチラシ講座を開催しました。

## この計画をよりよい計画にするため、皆さんの ご意見・ご提案をお待ちしています！

### ご意見は・・・

素案に対するご意見やご提案は添付の封筒をご利用いただき、お送りください。また、封書の他、はがき、ファクシミリ、電子メールでも結構です。

いただきましたご意見等は今後の計画策定にいかしてまいります。個々には回答いたしません。後日まとめたものを第2期西区地域福祉保健計画策定委員会に報告します。同委員会の資料は公表され、西区ホームページでご覧いただけます。

（電子メール ni-hukuho@city.yokohama.jp）

また、素案に対し、広く区民の意見をいただく場として、素案説明会・意見交換会を開催します。日程については下記のとおりです。是非ご参加ください。

実施日	時間	会場
11月26日（木）	午後1時30分～3時	西区役所 （住所 中央1-15-10）
11月27日（金） 12月4日（金）	午後7時～8時30分 午前10時～11時30分	フクシア 【西区福祉保健活動拠点】 （住所 高島2-7-1）
12月2日（水）	午後7時～8時30分	藤棚地域ケアプラザ （住所 藤棚町2-198）
12月8日（火）	午後7時～8時30分	西スポーツセンター （住所 浅間町4-340-1）

### 募集期間は・・・

ご意見は平成21年12月28日（月）までにお寄せください。

### 提出と問合せ先

横浜市西区役所 福祉保健課運営企画係（区役所4階47番窓口）

〒220-0051 横浜市西区中央1-5-10

平成21年11月発行

電話 045（320）8436

FAX 045（324）3703

電子メール ni-hukuho@city.yokohama.jp